松山町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

県営特殊農地保全整備事業豊留地区に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

井出間遺跡
山ノ田遺跡

1989年3月

鹿児島県松山町教育委員会

序　　文

県営特殊農地保全整備事業が豊留地区で行われるにあたり、この地域は文化財の包蔵地であのるで10月25日から11月25日までの間、発掘調査が行われました。

調査主体者の心情としては、発掘調査の結果この保全整備事業の工事の進捗に支障が出ないようにあって欲しいという気持ちと、先人が住んでいたと思われる場所であるので素晴らしい遺跡が見付かって欲しいという気持ちが交錯し何とも言えない心情にあるものであります。

調査の結果、弥生時代の遺物、弥生時代の方形及び花弁型住居跡、縄文時代早期の遺物、縄文時代晩期の遺物が出土しました。

縄文時代早期の遺物が発見されたC地区（以前の改良工事区域に近接し畑地の削平された地区）が記録による保存と決定したほかは、住居跡始めすべてを遺物検出面より60～100cm、60～120cmの盛り土を行い保存することになり前期の心配したことが両方とも生かされることになり喜んでいるところであります。

発掘作業員の言によると、この遺跡のすぐ近くの前谷に、こんこんとわき出る泉があるということであり、北向きの多いこの場所の周辺はうっそうたる森林であったのであろうと想像することであります。

今度の発掘現場の下の方の泉に近い畑の持ち主の話を聞けば、この付近を発掘調査すれば素晴らしい遺跡も出るのではないかと思われる節もあるようです。余裕が出たら目を向けたいものだと思います。

最後になりましたが、積極的に発掘作業に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化課の先生方に厚くお礼申し上げます。

平成　元年　3月

松山町教育委員会教育長　　加　世　田　　實

例　　言

1　本報告書は、県営特殊農地保全整備事業（豊留地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、鹿児島県農政部（農地建設課）からの受託事業として松山町（町教育委員会）が受託し、調査主体者となり実施した。なお、発掘調査は、鹿児島県教育庁文化課に依頼した。

3　発掘調査にあたり、鹿児島県文化財保護審議会委員河口貞徳氏に現地において指導・助言を受けた。

4　本書に用いたレベル数値は、全て海抜絶対高である。

5　遺跡は井手間・山ノ田に分けて表示し、地区番号は調査中に設定した値である。

6　遺物番号は、本文及び挿図・図版の番号と一致する。

7　遺物の実測・トレース及び写真撮影は長野真一・宮田栄二が行った。

8　出土した遺物は、報告書作成終了の後、松山町教育委員会で保管し、展示・活用する計画である。

9　本書の執筆は、文末に記した。なお、第2章遺跡の位置と環境は「松山町埋蔵文化財調査報告書2」を引用し、一部加筆した。

10　本書の執筆及び編集は、長野・宮田が行った。

本 文 目 次

第 1 章　調査の経過……1
　第1節　調査に至るまでの経過……1
　第2節　調査の組織……1
　第3節　調査の経過……2
第 2 章　遺跡の位置と環境……3
　第1節　遺跡の位置と環境……3
第 3 章　調査の結果……8
　第1節　井手間遺跡……8
　第2節　山ノ田遺跡……32
第 4 章　ま と め……36

挿 入 目 次

第1図　松山町遺跡分布図……3
第2図　C地点位置図・出土状況……8
第3図　C 1地区出土遺物……9
第4図　C 1地区出土遺物……10
第5図　D地点位置図・出土遺物……12
第6図　D 1地区出土遺物……13
第7図　D 1地区出土遺物……14
第8図　E地点位置図・出土状況……15
第9図　E 1地区出土遺物……16
第10図　E 1地区出土遺物……17
第11図　E 1地区出土遺物……19
第12図　E 1地区出土遺物……20
第13図　E 2地区出土遺物……21
第14図　B地点トレンチ配置図……22
第15図　遺構配置図……23
第16図　1号住居跡・土層断面……24
第17図　1号住居跡遺物出土状況……25
第18図　1号住居跡出土遺物……26
第19図　2号住居跡・土層断面……27
第20図　2号住居跡遺物出土状況……28
第21図　2号住居跡出土遺物……29
第22図　土坑状遺構平・断面図……30
第23図　B地点2区遺物出土状況……31
第24図　B地点2区出土状況……31
第25図　A地点位置図・出土状況……32
第26図　A地点出土遺物……33
第27図　A地点出土遺物……34

図 版 目 次

図版1　C地点出土遺物……41
図版2　D地点出土遺物……42
図版3　E地点出土遺物……43
図版4　E地点出土遺物……44
図版5　E地点出土遺物……45
図版6　E地点出土遺物……46
図版7　住居跡検出状況……47
図版8　住居跡検出状況……48
図版9　住居跡出土遺物……49
図版10　B・A地点出土遺物……50
図版11　A地点出土遺物……51

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）は、本町新橋字豊留地区の特殊農地保全整備（特農）事業を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会（文化課）に照会を依頼した。

これをうけて、昭和62年４月、文化課で当該地区の分布調査を実施したところ、昭和63年度工事実施予定区域内に２ケ所の遺跡（井手間・山ノ田）の存在していることが確認された。

この結果に基づき、農地建設課(大隅耕地事務所)、文化課、松山町教育委員会の間で事業の推進と埋蔵文化財の保護にかかわる協議が行われ、松山町教育委員会が調査主体となり、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘調査を実施することとなり、発掘調査は県文化課に依頼した。

調査に係わる経費は、県農政部と松山町の二者で負担し、その額は、300万円である。

発掘調査は昭和63年度事業として実施し、発掘調査は、昭和63年10月24日から11月25日までその後報告書作成作業に入り、平成元年３月31日までに終了した。

発掘調査面積は1569.2㎡であった。

第２節　調査の組織

調査主体者	鹿児島県曾於郡松山町教育委員会	
調査責任者	教　育　長	加世田　實
調査事務担当者	管理　課長	川上　哲郎
	社会教育課長	吉元　俊彦
	主　　事	永田　史生
	主　　事	津曲　兼隆
	主　　事	上原　　登
発掘調査担当者	鹿児島県教育庁文化課主査	長野　真一
	主　　事	宮田　栄二

調査指導助言者　鹿児島県文化財保護審議会委員　河口　貞徳

なお、調査企画に関し、県教育庁文化課長：吉井浩一、同課長補佐：奥園義則、同主幹：立園多賀生、同文化財研究員兼埋蔵文化財係長：吉元正幸、同企画助成係長京田秀允氏等の指導・助言を得た。

第３節　調査の経過

整備事業計画地区は、18㌶に及ぶため、地区内を５地区に分けその地区ごと（Ａ～Ｅの名称）に調査を行った。

各地点の調査は、地形等の条件を考慮し１×２ｍの試掘構を基本とし、必要に応じて重機を投入し遺物の有無についての把握に努めた。

調査の結果、Ａ地点に縄文時代早期・Ｂ地点に弥生時代中期の住居跡・Ｃ地点に縄文時代早期・Ｄ地点に縄文時代晩期・Ｅ地点に縄文時代晩期と奈良～平安時代の遺物・遺構が確認されている。

以下は、調査の日誌抄である。

10月24日（月）　調査開始。調査器具の搬入、教委及び調査担当者による発掘調査についての注意事項の説明。工事担当者との打ち合せ。Ａ地点、小試掘構に依る発掘開始。

10月25日（火）　Ａ地点の調査継続、出土品なし。

10月26日（水）　Ａ地点の調査継続、出土品なし。

10月27日（木）　Ａ地点の調査継続。Ｂ地点の調査開始。

10月28日（金）　Ｂ地点の調査継続、弥生時代の遺物出土、また、遺構を確認したため拡張、検出を図る。住居跡の可能性高い。

10月31日（月）　Ｂ地点の調査継続（重機投入）、その結果、方形及び花弁型住居跡と判明。Ｃ地点調査開始。

11月１日（火）　Ｂ・Ｃ地点継続、Ｄ地点開始。Ｃ地点に縄文時代早期の遺物が出土し、重機投入。Ｄ地点では、縄文時代晩期出土。

11月２日（水）　Ｂ・Ｃ・Ｄ地点継続。Ｄ地点には重機投入、２～３層に出土確認。Ｃ地点では４～５層で確認。

11月８日（火）　Ｂ・Ｃ・Ｄ地点継続。Ｅ地点開始、台地の北側で遺物確認（縄文時代晩期）。

11月９日（水）　Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ地点継続。Ｂ地点１号住居跡検出。

11月10日（木）　Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ地点継続。Ｂ地点１・２号住居跡検出。３者協議。

11月11日（金）　Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ地点継続。Ｂ地点住居跡検出。Ｃ１区記録保存調査に移行。

11月14日（月）　Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ地点継続。Ｂ地点住居跡断面図作成、柱穴確認。Ｄ地点終了。

11月15日（火）　Ｂ・Ｃ・Ｅ地点継続。Ｂ地点住居跡実測図作成、床面検出。

11月16日（水）　Ｂ・Ｃ・Ｅ地点継続。Ｂ地点住居跡・土坑検出。

11月21日（月）　Ａ地点補充調査。Ｂ地点住居跡内実測及び遺物取り上げ。各地点の記録。

11月22日（火）　Ａ・Ｂ地点継続。Ｂ地点住居跡エレベーション図作成。松山小遺跡見学。

11月24日（木）　Ａ・Ｂ地点継続。Ｂ地点住居跡柱穴の断ち切り調査。各地点の記録継続。

11月25日（金）　全調査区の記録完了。調査機材の納入、教委による解散式。

その後、県教育庁埋蔵文化財収蔵庫において遺物の整理及び報告書作成を行う。

第２章　遺跡の位置と環境

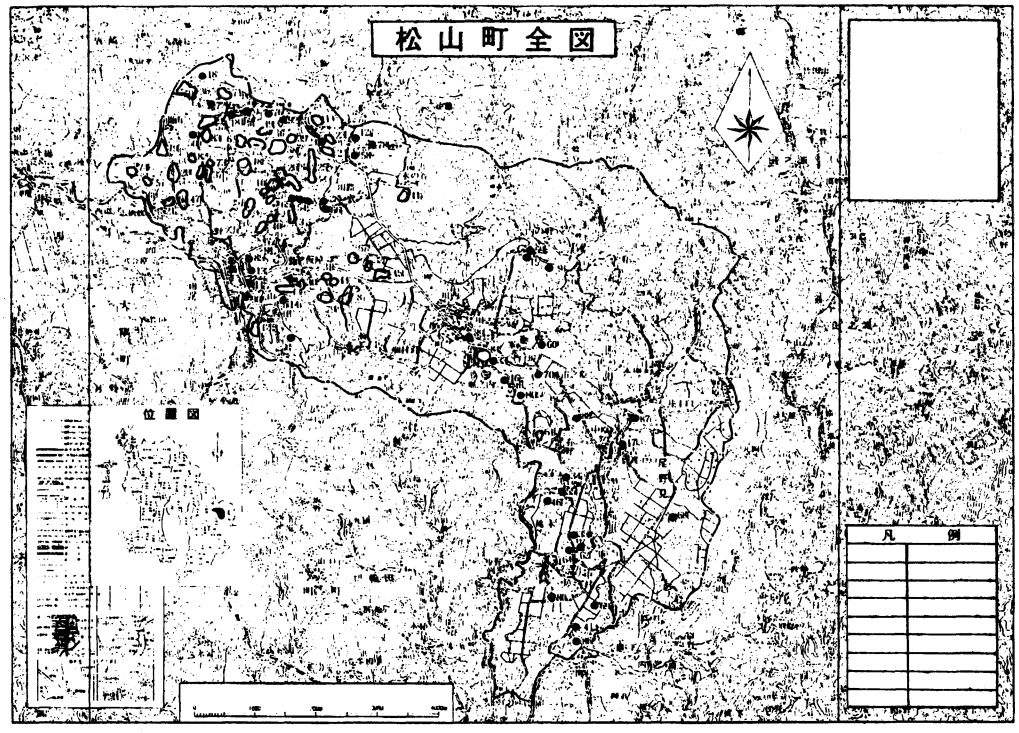
第１節　遺跡の位置と環境

井手間遺跡・山ノ田遺跡は鹿児島県曾於郡松山町大字新橋に所在し、松山町役場から約１km の北側に位置している。両遺跡は、一般地方道飯野・松山・都城線を境とし、西側が井手間遺跡、東側が山ノ田遺跡と呼ばれているが、もともとは独立した同一の台地に立地している。

松山町は、大隅半島・曾於郡のほぼ中央部に位置し、東西12km、南北４kmの町勢で、町の総面積は、49.69km²、経緯度は13度から13度７分、北緯31度37分である。また、東に志布志、西に末吉・大隅、南に有明・志布志・北が末吉と４の町に囲まれる形で境を成している。

北に位置する標高520mの宮田山と、南に位置する408mの霧岳が最高位で丘陵地を成し、西部や、南東部はおおむね火山灰台地である。特に、西部一帯は火山灰台地が広範囲に広がっている。また、これらの火山灰台地では侵食による開析が進み、大小の谷が発達し、各台地は独立した丘陵状を成している。なお、両遺跡の立地する台地もそれらの一部に相当している。

本台地は、東西に長く1.1km、南北0.3kmでほぼ平坦な形状を成し、谷部とは40mの比高差がある。



第１図　松山町遺跡分布図

表１　松山町及び近隣の遺跡一覧（番号は文献(1)、付図と同一、第１図は下２桁の番号）（第１図、付図参照）

番　号	遺跡名	所　在　地	時代							遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世		
67-1	宇都谷	新橋字宇都谷		○						前平式	26
67-2	宇都D	新橋字宇都		○				○		吉田式黒曜石土師器須恵器	26
67-3	砂田A	新橋字砂田		○						石坂式黒曜式押型文石鏃	26
67-4	中村	尾野見字中村		○						前平式	
67-5	下迫C	新橋字下迫		○						塞ノ神式姫島産黒曜石	
67-6	榎之俣	新橋字榎之俣		○						塞ノ神式	
67-7	砂田D	新橋字砂田		○	○					轟式	
67-8	稗ケ迫C.	新橋字稗ケ迫		○	○			○		轟式・土師器	26
67-9	内野野C	秦野字内野野		○						塞之神式・打製石斧	
67-10	前ノ谷	秦野字堀ノ内		○							
67-11	公会堂上	新橋字公会堂上		○						塞之神式	
67-12	狩川B	新橋字狩川		○						阿高式・敲石	
67-13	松山	新橋字松山		○						阿高式・御領式磨製石斧・敲石	
67-14	入道久保A	新橋字入道久保		○						阿高式石斧	
67-15	内野野B	秦野字内野野		○						阿高式・磨製石斧凹石・石皿	
67-16	郷田	秦野字郷田		○						阿高式・磨製石斧凹石・石皿	
67-17	蛇山ノ谷	尾之見字蛇山ノ谷		○	○					石匙・打製石斧	
67-18	垂門A	新橋字垂門		○						市来式	
67-19	下迫A	新橋字下迫		○	○			○		御領式・土師器	26
67-20	堀口	新橋字堀口		○				○		御領式・石鏃・青磁	26
67-21	河床	新橋字河床		○							
67-22	宇都A	新橋字宇都		○						松山式・石皿	26
67-23	宇都B	新橋字宇都		○				○		須恵器	26
67-24	宇都C	新橋字宇都		○						岩崎上層式	26
67-25	中村迫	新橋字中村迫		○				○		石皿・打製石器・土師器・須恵器	26
67-26	山ノ田	新橋字山ノ田		○				○		松山式・土師器・石鏃	26
67-27	後谷A	新橋字後谷		○						指宿式	26
67-28	上ノ原	新橋字上ノ原		○						綾式・岩崎上層式	
67-29	入道久保C	新橋字入道久保			○					打製石器	
67-30	仮屋	新橋字仮屋		○				○		土師器	
67-31	稗ケ迫A	新橋字稗ケ迫		○				○		御領式・土師器	26
67-32	中山A	新橋字中山		○						黒曜石	26
67-33	堀ノ内	秦野字堀ノ内		○				○		市来式・黒曜石・土師器	26
67-34	黒石崎	尾野見字黒石碕		○						出水式・敲石・石剣	
67-35	井手段III	尾野見字中村井手段		○						岩崎上層式	
67-36	百田	新橋字百田		○						上加世田式・打製石斧	26
67-37	構溝	新橋字垂門構溝		○				○		磨製石斧・土師器	26
67-38	牧ノ原B	新橋字牧ノ原		○				○			
67-39	大原	新橋字大原		○	○			○		入来式・土師器	
67-40	後ノ谷	新橋字後谷		○				○		土師器	
67-41	水流知	新橋字水流知		○				○		土師器	
67-42	蔵野	新橋字蔵野		○				○		土師器・打製石斧	
67-43	入道久保B	新橋字仮屋		○				○		土師器・須恵器	
67-44	稗ケ迫B	新橋字稗ケ迫		○						磨製石斧	
67-45	中山B	新橋字中山		○	○					入来式	26
67-46	黒石II	尾野見字黒石		○							
67-47	牧ノ段	新橋字牧ノ段		○							

表2

番号	遺跡名	所在地	時代							遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世		
67-48	井手間	新橋字井手間		○							26
67-49	梨木	新橋字梨木		○				○		土師器・青磁・鉄滓	
67-50	大窪B	新橋字大窪垂門		○				○		土師器	
67-51	後谷B	新橋字後谷		○							
67-52	前ノ谷	新橋字後谷		○							
67-53	前谷	新橋字前谷		○							8
67-54	砂田C	新橋字砂田		○				○		土師器	26
67-55	黒石I	尾野見字黒石		○							
67-56	豊留	新橋字豊留			○					打製石斧	
67-57	大窪A	新橋字大窪			○						26
67-58	狩川A	新橋字狩川			○					打製石斧・磨製石斧・敲石	
67-59	内野野A	秦野字内野野			○					石斧・石鏃	
67-60	柿木瀬戸	秦野字柿木瀬戸			○					打製石斧	
67-61	六日畑	尾野見字六日畑			○					山ノ口式・打製石斧	
67-62	中村手岡	尾野見字中村手岡			○					打製石斧	
67-63	鳩窪	尾野見字鳩窪			○					山ノ口式	
67-64	井手段I	尾野見字中村井手段			○						
67-65	砂田B	新橋字砂田			○						
67-66	川路	新橋字川路			○					打製石斧・石弾	
67-67	栗須田	新橋字栗須田			○						
67-68	尾野見	尾野見			○						
67-69	桐ノ木	尾野見字桐ノ木			○						
67-70	瀬戸地下式横穴	秦野字柿木瀬戸				○				地下式横穴	
67-71	竹下	新橋字竹下						○		土師器、須恵器・青磁	26
67-72	四ツ枝	新橋字四ツ枝						○		土師器、須恵器・青磁	
67-73	垂門C	新橋字垂門						○		土師器	
67-74	下迫B	新橋字下迫						○		土師器	
67-75	牧ノ原A	新橋字牧ノ原						○		土師器	
67-76	豊留	新橋字豊留						○		板碑	
67-77	後谷C	新橋字後谷									
67-78	狩川C	新橋字狩川						○		須恵器	
67-79	清水迫	新橋字清水迫						○		土師器	
67-80	川東	秦野字川東						○		土師器・須恵器	
67-81	豊留	新橋字豊留							○	田之神像	
67-82	垂門B	新橋字垂門			○			○		土師器	
67-83	前之窪	新橋字前之窪			○			○		土師器	26
67-84	秦野城跡	秦野字前之窪									
67-85	松山城跡	新橋字松尾								文治4年（1188年）隠岐守重頼築城松山川要害地	
67-86	銭ケ迫一里塚	桃木銭ケ迫									
67-87	柏木門権四郎の墓	尾野見									
67-88	中原一里塚	尾野見									
67-89	秦野の石敢当	秦野									
67-90	馬場の庚申塔	新橋馬場									
67-91	豊留の田の神像	新橋豊留									
67-92	豊留の板碑	〃									
67-93	前谷B	秦野									

末吉町

番　号	遺　跡　名	文献
66-1	南之郷中学校校庭	
66-3	花房	
66-4	新田山第１	
66-8	柿木下Ⅲ区	
66-13	南富田	
66-14	荒神免	
66-15	荒神免古墳	
66-20	竹有原	
66-21	大路	
66-22	原村第Ⅰ	
66-31	上桑鶴	
66-33	原村第Ⅱ	
66-34	まのせ	
66-35	原村	
66-36	屋敷寺	
66-46	坂元	
66-47	新田山第Ⅱ	
66-48	中原	
66-49	篠ケ迫	26
66-50	篝無一字一石経塚	
66-53	岩崎笠木谷五輪塔	
66-55	桜谷天の岩戸	
66-75	花房製鉄所跡	
66-107	前原	
66-109	西原	26
66-111	本堂	
66-115	柿之木野久尾A	
66-120	赤尾	7
66-121	掛尾	7
66-122	山ノ根	
66-123	土合原Ⅰ	
66-124	土合原Ⅱ	
66-125	土合原Ⅲ	
66-126	未名	

志布志町

番　号	遺　跡　名	文献
68-2	鎌石橋	
68-6	牧原	24
68-7	内門	24
68-8	白木原	24
68-9	大長野	24
68-10	宮谷口	24
68-11	本村	24
68-12	小牧	24
68-13	蔵園	24
68-14	中迫	24
68-18	上原	24
68-19	中須	24
68-20	西中畑	24
68-21	檜野	24
68-22	下原A	24

※欠番は付図の範囲外にある遺跡

番　号	遺　跡　名	文献
68-23	長尾	24
68-24	横尾A	24
68-25	横尾B	24
68-26	蓑輪	24
68-27	柳	24
68-42	出口	24
68-45	家野	24
68-46	松崎	24
68-48	牧	24
68-67	道重	24
68-71	吉原	24
68-72	牧野	24
68-73	出口	24
68-74	立花迫	24
68-79	片野洞穴	24
68-82	倉野	24
68-83	板山	24
68-84	白木八重	24
68-85	大越	24
68-86	小牧	24
68-87	小迫	24
68-88	山久保B	24
68-96	浜場	24
68-99	山据	24
68-100	今別府	24
68-101	上檜野	24
68-102	橋之口	24
68-120	山久保A	24
68-121	上出水	24
68-122	檜ノ口	
68-123	宮ケ中	24
68-124	下原	24
68-125	森山	24
68-126	平原A	24
68-127	平原B	24
68-128	平山	24
68-129	上原	24
68-130	下原B	24
68-131	札建	24
68-138	上佐野原	
68-146	田吹野	24
68-149	佐野	24
68-185	宮谷A	
68-186	宮谷B	
68-187	尾口	

有明町

番号	遺　跡　名	文献
69-1	柳井谷	26
69-2	松ケ尾	26
69-3	上ノ原B	26
69-4	菖蒲田	
69-5	井崎田鍋	

番　号	遺　跡　名	文献
69-6	仮屋A	26
69-8	室太郎	
69-11	茗ケ谷B	
69-15	黒葛A	
69-16	いせんぼ	
69-18	仮屋頭	

大隅町

番　号	遺　跡　名	文献
63-9	山神	26
63-14	久保崎Ⅲ	
63-19	久保崎Ⅳ	
63-21	縄瀬	
63-22	市	
63-33	八合原	
63-35	縄瀬Ⅱ	
63-47	稲葉崎	
63-48	桜迫Ⅰ	26
63-66	竹山Ⅰ	
63-67	下ノ山	
63-71	市柴Ⅰ	
63-73	坂之上	
63-84	前床	
63-79	大田尾	
63-80	城ケ迫	
63-83	宮園	
63-85	猪子平	
63-88	縄瀬Ⅰ	
63-90	市柴Ⅱ	
63-91	市柴Ⅲ	
63-104	山下口	
63-105	鳴神	
63-106	境木	
63-107	山段	
63-108	上八合	
63-109	志柄牧	
63-110	長迫	
63-112	下ノ山	
63-126	中馬場通	
63-128	竹山Ⅱ	
63-129	志柄	
63-130	桜迫Ⅱ	26
63-134	西之園	
63-151	元屋敷	
63-169	馬場城跡	
63-170	新城城跡	
63-171	月野城跡	
63-172	土成城跡	
63-176	月野経塚	
63-178	若松石見守の墓	
63-197	松尾田城	
63-198	広津田城	

文　　献

(1)『鹿児島県市町村別遺跡地名表』鹿児島県埋蔵文化財報告書(36) 1985.3　鹿児島県教育委員会

(2)『中岳洞穴』1980.3　末吉町教育委員会

(3)『宮の迫遺跡』末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（2）1981.3　末吉町教育委員会

(4)『箱根遺跡・前畑遺跡・真方入口遺跡・通山上川遺跡・野田後遺跡』末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（3）　1985.3　末吉町教育委員会

(5)『上中段遺跡・仮牧遺跡・五位塚渡り下遺跡・下ノ窪遺跡・小中野下原遺跡』末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）　1986.3　末吉町教育委員会

(6)『四枝道遺跡・楠木岡遺跡・中牛牧遺跡』末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（5）　1987.3　末吉町教育委員会

(7)『赤尾遺跡・掛尾遺跡』末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）　1988.3　末吉町教育委員会

(8)『前谷遺跡』松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）　1986.3　松山町教育委員会

(9)『宮ノ前遺跡』　1975.3　志布志町教育委員会

(10)『別府（石踊）遺跡』　1975.3　志布志町教育委員会

(11)『野久尾遺跡』　1979.3　志布志町教育委員会

(12)『弓場ケ尾地区（簑輪遺跡・柳遺跡)』　1980.3　志布志町教育委員会

(13)『柳井谷遺跡概報』　1983.3　志布志町教育委員会

(14)『倉園Ｂ遺跡・十文字遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（5）　1983.3　志布志町教育委員会

(15)『柳井谷遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）　1984.3　志布志町教育委員会

(16)『倉園Ｂ遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（7）　1984.3　志布志町教育委員会

(17)『井手平遺跡・池野遺跡・八郎ケ野Ａ遺跡・八郎ケ野Ｂ遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（8）　1984.3　志布志町教育委員会

(18)『中原遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（9）　1985.3　志布志町教育委員会

(19)『蔵園Ａ遺跡・土光遺跡・風穴遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（10）　1985.3　志布志町教育委員会

(20)『山久保Ａ遺跡・山久保Ｂ遺跡・蔵園遺跡・中迫遺跡・西中畑遺跡・小迫遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（11）　1986.3　志布志町教育委員会

(21)『出口Ｂ遺跡・潤ケ野遺跡・東原遺跡・楢野遺跡・上原遺跡・平原Ａ遺跡・平原Ｂ遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（12）　1987.3　志布志町教育委員会

(22)『飛渡遺跡・島田遺跡・白木原遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（13）　1988.3　志布志町教育委員会

(23)『札元遺跡・山原遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）　1985.3　有明町教育委員会

(24)『志布志の埋蔵文化財―周知の遺跡詳細分布状況』　1985　志布志町教育委員会

(25)『大隅地区埋蔵文化財分布調査概報』鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(25)　1983.3　鹿児島県教育委員会

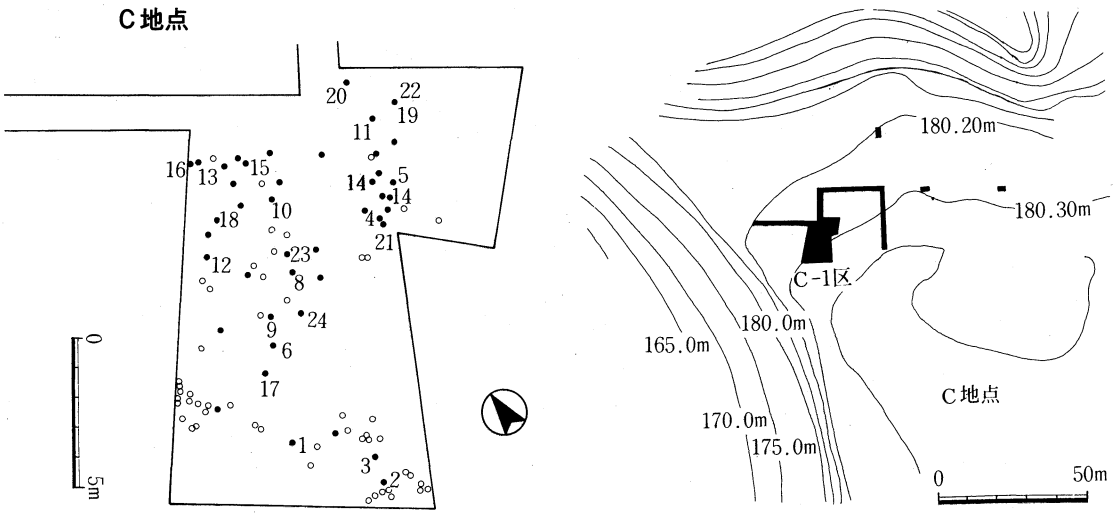
(26)『大隅地区埋蔵文化財分布調査概報―昭和58年度―』鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(29)　1984.3　鹿児島県教育委員会

(27)『稗ケ迫Ｂ・Ｃ，前谷Ｂ遺跡』松山町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)　松山町教育委員会　1989年

第３章

第１節　井手間遺跡

Ｃ地点



第２図　Ｃ地点位置図・出土状況

井手間遺跡の西端に位置し、標高182.0m程に遺物が包含されていた。

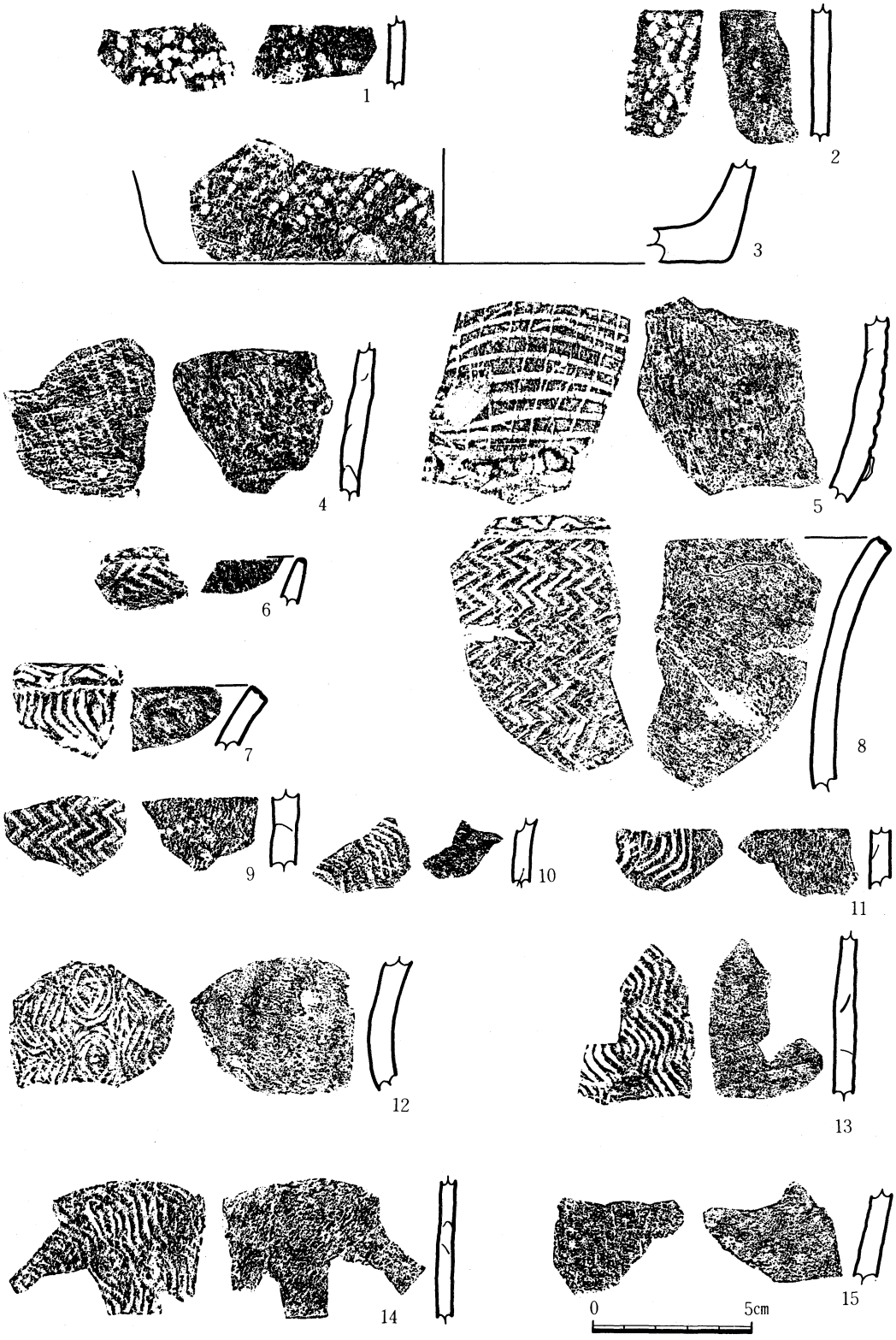
Ｃ地点での遺跡の中心地は、改良工事の対象から除外された東側の畑地であったと推定できるが、その畑地は既に削平を受け、その影響は遺物包含層にまで及んでいる可能性が高い。トレンチによる確認調査の結果、遺物を包含する残存部分の少ないこと、また、工法的に現状での保存が困難な地域であることなどより、記録により保存を図ることとなり、引き続き発掘調査を行った。

遺物は、アカホヤ火山灰層の下位の４層（やや粘質を持つ灰色土）と５層（褐色土）に出土している。

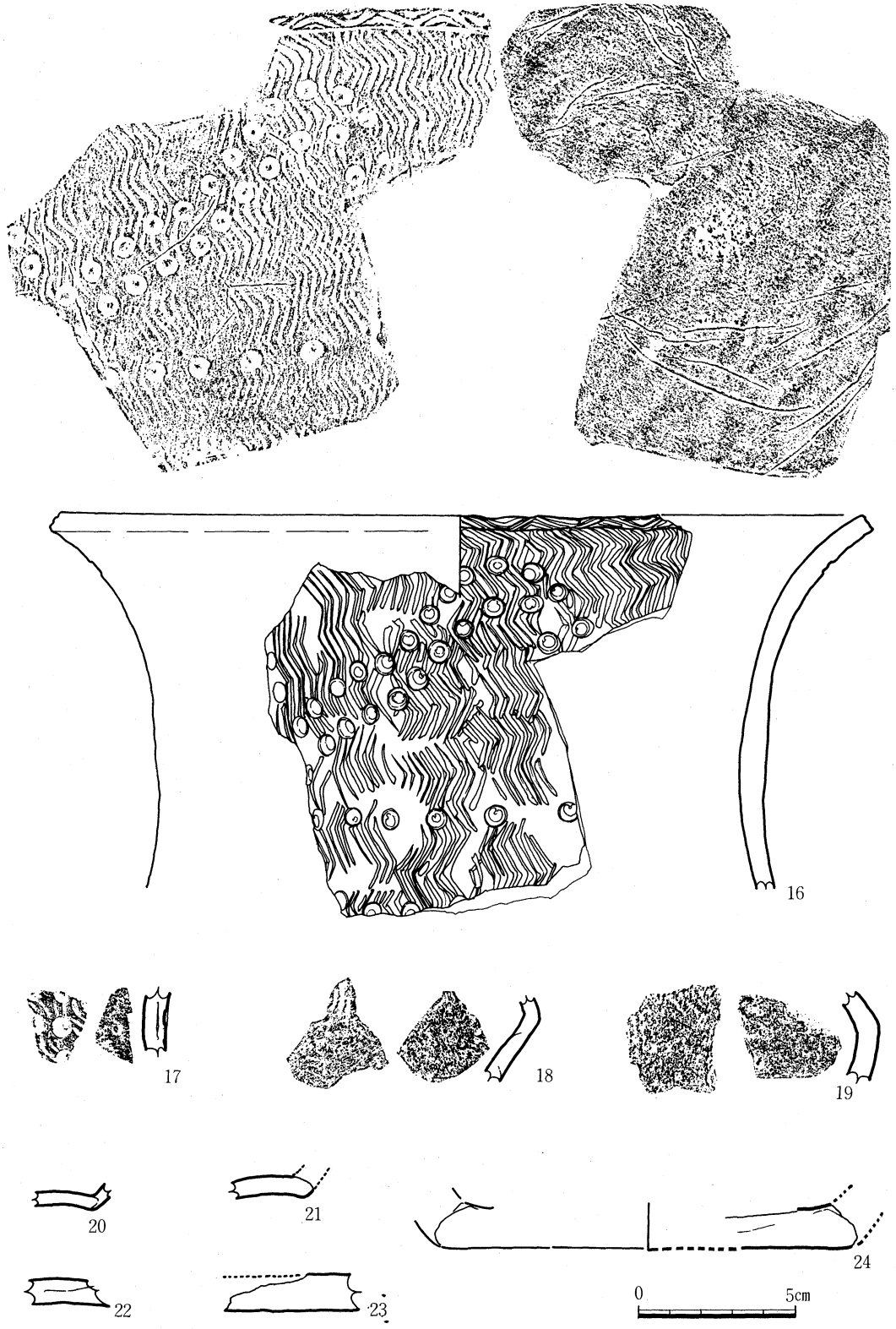
東側の畑地では遺物包含層の４～５層が露出し、調査区の東端ではアカホヤ火山灰層の最下部が表土層に相当している。また、旧地形は、北に行くにしたがい緩やかな傾斜を成していることも確認された。

第２図の分布図の●は土器片、○は礫の出土を示している。

土器は３タイプに分けられ、貝殻腹縁刺突文（１～３）・撚り糸圧痕文？（４～５）・山形押し型文（６～13）である。



第３図　Ｃ１地区出土遺物

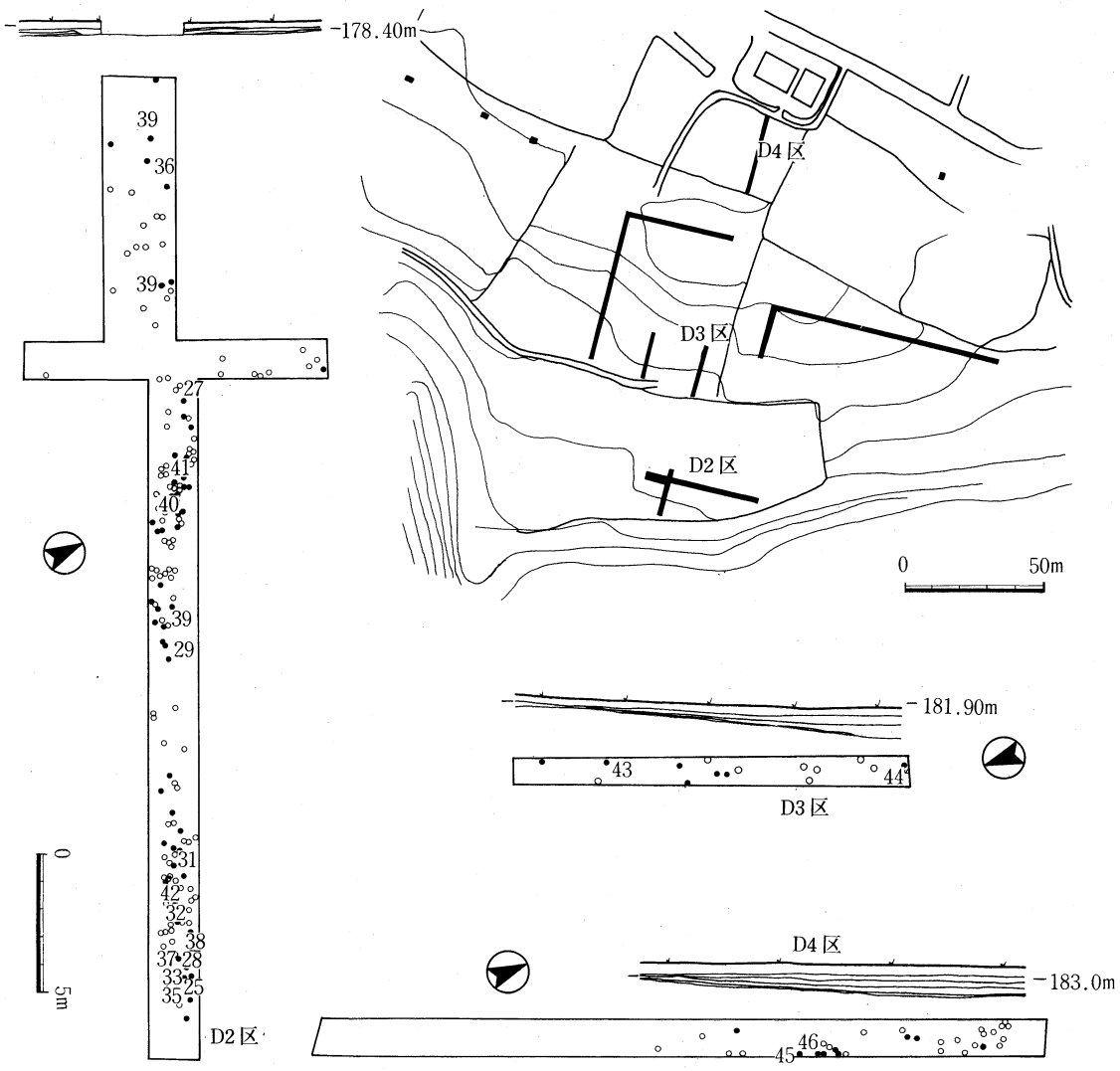


第４図　Ｃ１地区出土遺物

井手間遺跡土器観察表

No.	取上No.	レベル(m)	器種	精粗	調整	出土区	備　　考
1	4	182.22	鉢形(円筒形)		外：ナデ 内：ナデ	C－1	施文具は貝殻腹縁による押圧、砂粒を多く含む、薄手硬質。
2	1	182.37	鉢形(円筒形)		外：ナデ 内工具ナデ	C－1	施文具は貝殻腹縁による押圧、角閃石多し。薄手硬質。
3	2	182.34	鉢形(円筒形)		外：ナデ 内：ナデ	C－1	施文具は貝殻腹縁による押圧、復元底径17.5cm、薄手硬質。
4	16	181.62	鉢形		外：条痕後ナデ 内：ナデ	C－1	施文具は撚り糸による押圧、内面にスス付着、薄手硬質。部位傾き不明。
5	20	181.59	鉢形		外：入念なナデ 内：粗のナデ	C－1	ヘラによる平行沈線文施文後、撚り糸(1)による押捺、刻み目突帯、部位傾き不明。
6	7	181.95	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	口縁部。口唇部は、やや尖り気味。薄手硬質。
7	28	181.51	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	口縁部。口唇部は、平坦。縦位の山形押型文で、口唇部も施文。長石を多く含む。薄手硬質。
8	10	181.24	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	口縁部。口唇部は平坦。縦位の山形押型文で口唇部も施文。内面にスス付着。長石を多く含む。薄手硬質。
9	8	181.88	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。接合面明瞭。長石を多く含む薄手硬質。
10	35	181.54	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。長石を多く含む。薄手硬質。
11	26	181.48	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。長石を多く含む。薄手硬質。
12	40	181.54	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。長石を多く含む。薄手硬質。内面の整形は指頭の縦位による。
13	30	181.43	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。長石を多く含む。薄手硬質。
14	18 21	181.57 181.47	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。長石を多く含む。薄手硬質。
15	31	181.50	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。長石を多く含む。薄手硬質。部位不明。
16	37 39	181.41 181.63	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	口縁部・頸部。口唇部平坦。縦位の山形押型文の後、竹管状工具による円形刺突文。復元口径25.8cm。
17	6	182.06	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文の後、竹管状工具による円形刺突文。薄手硬質。
18	38	181.53	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。胴部の屈曲部？外面にスス付着。薄手硬質。
19	25	181.40	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	縦位の山形押型文。部位・傾き不明。石英を多く含む。薄手硬質。
20	27	181.59	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	底部片。上げ底気味（小型)。長石・角閃石を多く含む。薄手硬質。21と同一固体？
21	15	181.63	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	底部片。上げ底気味（小型)。長石・角閃石を多く含む。薄手硬質。20と同一固体？
22	25	181.40	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	底部片。上げ底気味。長石を多く含む。薄手硬質。
23	12	181.66	鉢形		外：ナデ 内：－	C－1	底部片。内面は、剝脱。粗の砂粒多し。24と同一固体？
24	9	181.84	鉢形		外：ナデ 内：ナデ	C－1	底部片。接合面で剝落。粗の砂粒多し。23と同一固体？復元底径が12.9cm。

D地点



第5図　D地点位置図・出土状況

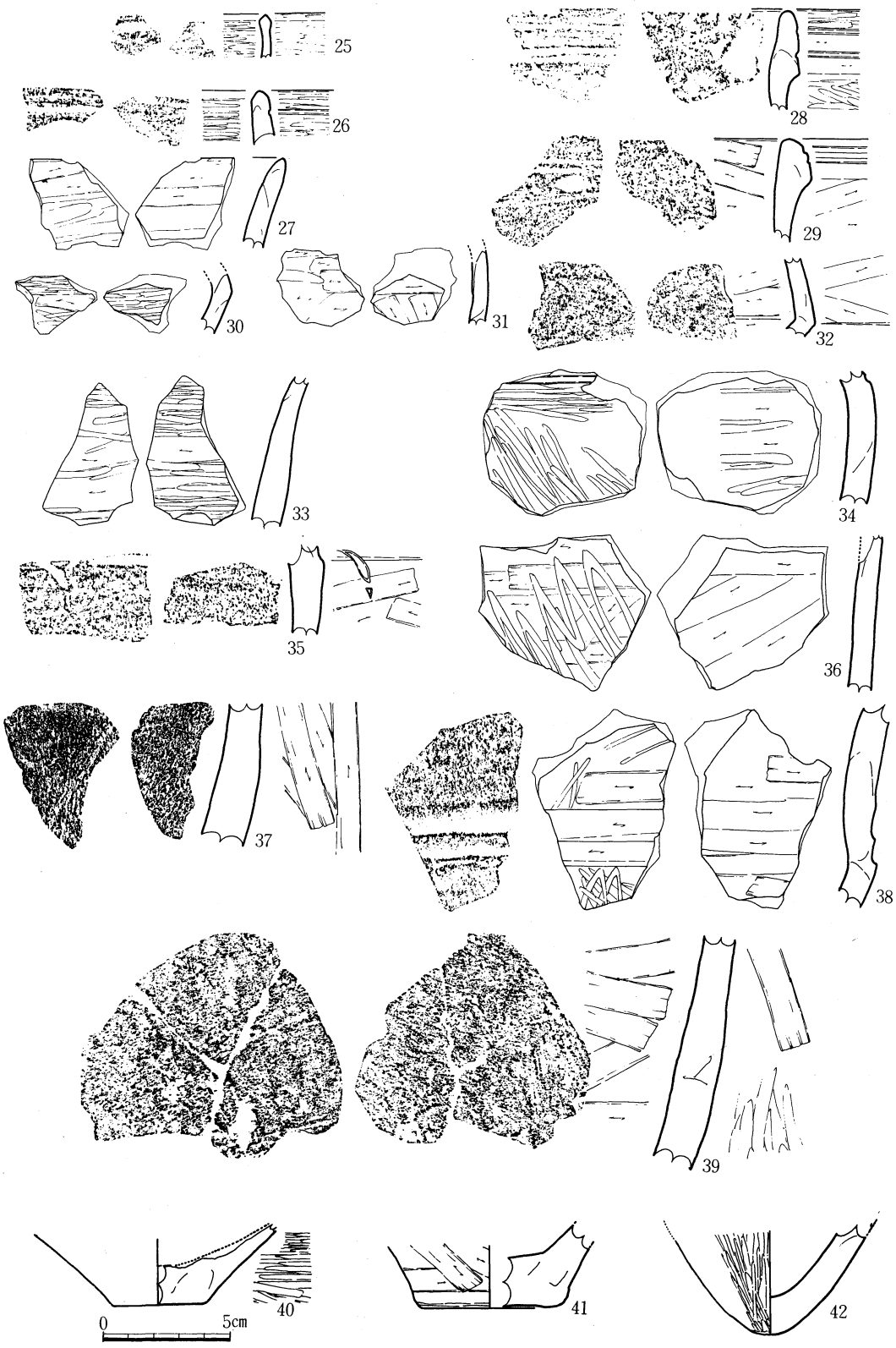
遺跡の先端部からやや東に寄った位置で、186.0～178.0m程に遺物の包含が見られた。

調査の結果、3箇所で顕著な遺物包含層が見られた。そこで、南側よりD2、D3、D4区と呼び作業を進めた。

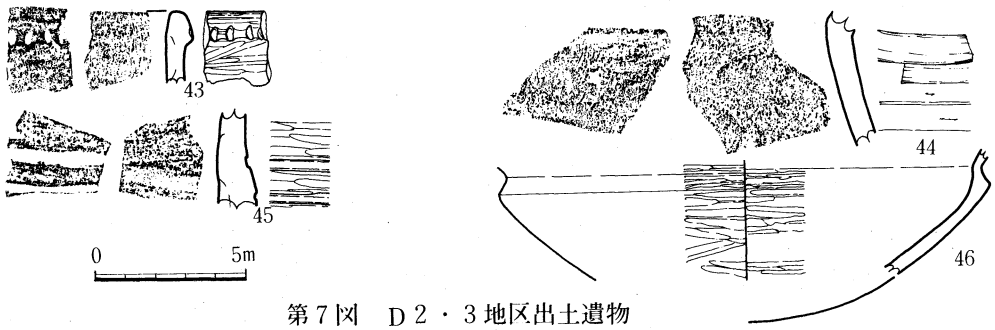
なお、D地点については、工法的に遺物検出面より60～100cmの盛り土を行い保存することとなった。

3区ともほぼ類似する時期の遺物が見られ、出土は2層、3層である。

第5図の分布図の●は調査時に遺物番号を付けて採集したもの、○はポイントのみで採集したものである。



第6図　D・1区出土遺物

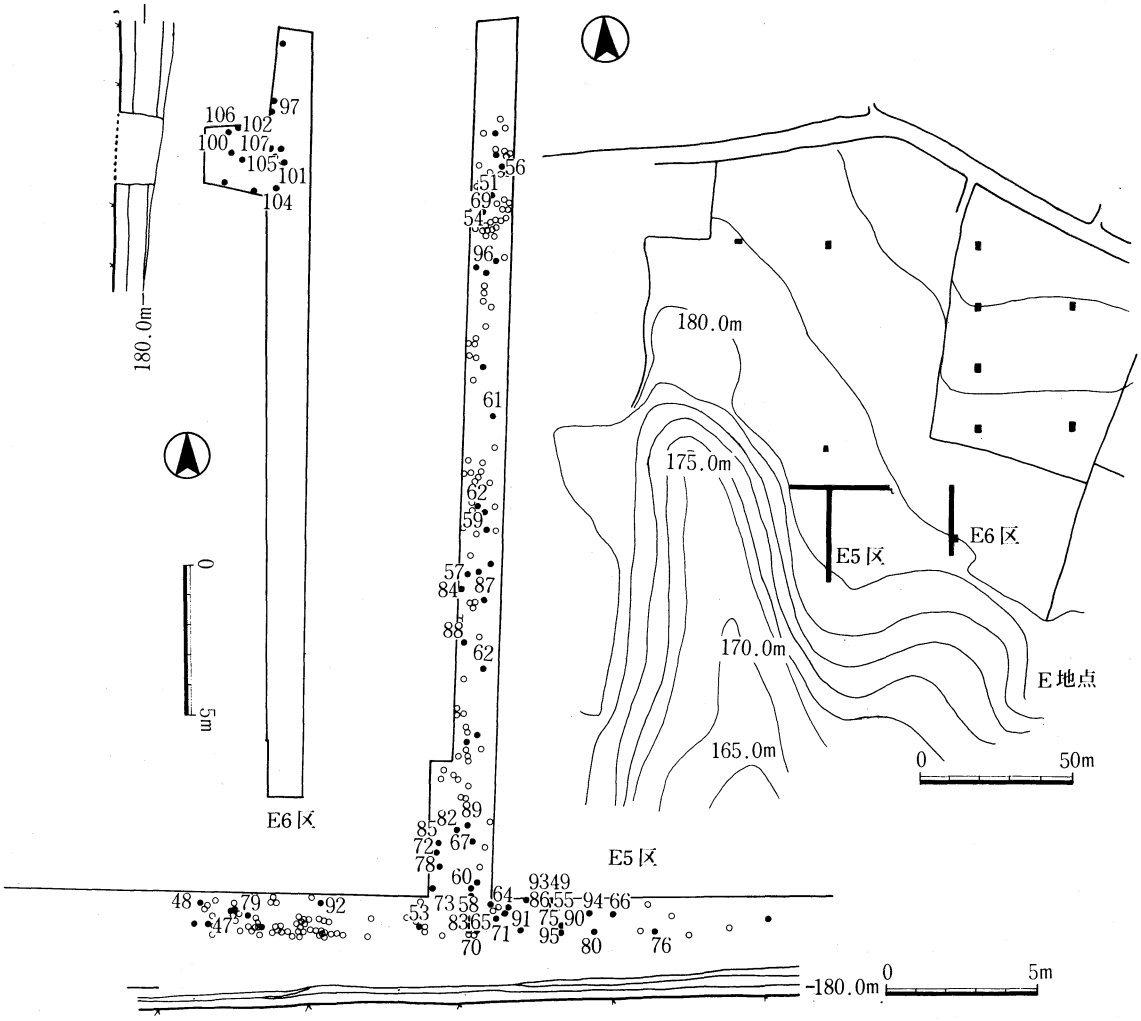


第７図　Ｄ２・３地区出土遺物

井手間遺跡土器観察表

No.	取上No.	レベル(m)	器種	精粗	調整	出土区	備考
25	56	177.94	鉢(小)	精	外：ケンマ 内：ケンマ	D－1	口縁部。口唇部は尖り気味。小形の鉢形土器。砂粒を多く含み、特に石英が目立つ。
26	III層	——	鉢(大)	精	外：ケンマ 内：ケンマ	D－1	口縁部。口唇部は丸みを持つ。口縁部の沈線は２本以上と推定。砂粒を多く含み、特に石英が目立つ。
27	9	178.09	鉢(大)	粗	外：工具ナデ 内：工具ナデ	D－1	口縁部。口唇部は尖り気味。工具によるナデは、丁寧。外面にスス付着。粗の砂粒多し。
28	54	177.90	鉢(大)	精	外：ケンマ 内：——	D－1	口縁部。口唇部は丸みを持つ。口縁部は直行。沈線は２本。微砂粒多く含み、特に石英が目立つ。
29	34	177.97	鉢(大)	粗	外：工具ナデ 内：工具ナデ	D－1	口縁部。口唇部は丸みをもつ。沈線は２本。砂粒を多く含み、特に、角閃石が多く、ザラザラしている。
30	III層	——	鉢	精	外：ケンマ 内：ケンマ	D－1	傾き不明。浅鉢の可能性がある。外面に多量のスス付着。接合面が明瞭に観察できる。
31	42	177.91	鉢	粗	外：工具ナデ 内：工具ナデ	D－1	部位・傾き不明。長石・角閃石を多く含む。接合面で剝落、接合面が明瞭に観察できる。
32	49	177.84	鉢	粗	外：工具ナデ 内：工具ナデ	D－1	傾き若干不明。外面にスス付着。
33	55	177.89	鉢(大)	精	外：ケンマ 内：ケンマ	D－1	傾き不明。内面のケンマは丁寧。微砂粒を多く含む。深鉢形土器の頸部？
34	III層	——	鉢(大)	精	外：ケンマ 内：ケンマ	D－1	外面のケンマは、縦・横方向で一定せず。外面に多量のスス付着。石英・角閃石の混入が目立つ。
35	57	177.83	鉢(大)	粗	外：工具ナデ 内：工具ナデ	D－1	部位・傾き不明。横走する凹線とクロスする単沈線接合面が明瞭に観察できる。砂粒を多く含み、ザラザラしている。
36	5	178.09	鉢(大)	粗	外：粗のケンマ 内：工具ナデ	D－1	部位・傾き不明。外面に少量のスス付着。外面は工具ナデの後、波状にケンマ。薄手硬質。
37	53	177.85	鉢(大)	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	D－1	胴部下位片。厚手でやや軟質・長石を含み、ザラザラしている。
38	52	177.87	鉢(大)	精	外：粗のケンマ 内：工具ナデ	D－1	ヘラ状工具による浅い凹線。外面は工具ナデの後、粗のケンマ。砂粒を多く含み、ザラザラ。傾き若干不明。
39	2 7 28	178.08 178.10 177.94	鉢(大)	粗	外：工具ナデ 内：工具ナデ	D－1	胴部下位片。厚手で、やや軟質。傾き不明。砂粒を多く含み、ザラザラしている。
40	22	178.13	鉢(小)	精	外：ケンマ 内：——	D－1	平底・復元底径3.7cm。細砂粒を多く含む。外面のケンマは丁寧。内面は剝落して不明。小型の鉢？
41	14	178.14	鉢(小)	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	D－1	平底・復元底径5.9cm。砂粒を多く含む。内面に多量のスス付着。
42	48	177.84	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	D－1	丸底。外面のケンマは縦方向。砂粒を多く含み、特に長石が目立つ。内面に多量のスス付着。接地面にスレ痕。
43	2	181.60	鉢(小)	精	外：ケンマ 内：ケンマ	D－2	口縁部。口唇部は丸みを持つ。口縁端部の凹点はヘラによる。外面に少量のスス付着。浅鉢形土器？
44	7	180.52	鉢(大)	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	D－2	傾き不明。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。内面に少量のスス付着。
45	8	182.38	鉢(大)	精	外：ケンマ 内：ナデ	D－3	口縁部？傾き不明。ヘラによる２本以上の沈線。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。
46	6	182.38	浅鉢	精	外：ケンマ 内：ケンマ	D－3	内面のケンマは丁寧。薄手硬質。灰黒色。復元胴部径16.2cm。外面に少量のスス付着。
47	3	180.38	浅鉢	精	外：ケンマ 内：ケンマ	E－1	口縁部片。口唇部は丸みを持ち、端部に１条の沈線。ケンマは入念。灰色・薄手硬質。
48	2	180.36	浅鉢	精	外：粗のケンマ 内：粗のケンマ	E－1	口縁部。傾き不明。口唇部及び端部は平坦。内外面にスス付着。細砂粒多し。
49	28	179.89	浅鉢	精	外：ケンマ 内：ケンマ	E－1	口縁部。口唇部及び端部は平坦。48と同一固体の可能性あり。外面にスス付着。薄手硬質。

E地点



第8図　E地点位置図・出土状況

D地点とは、中央の幹線道路を挟んで対峙する北側に位置している。

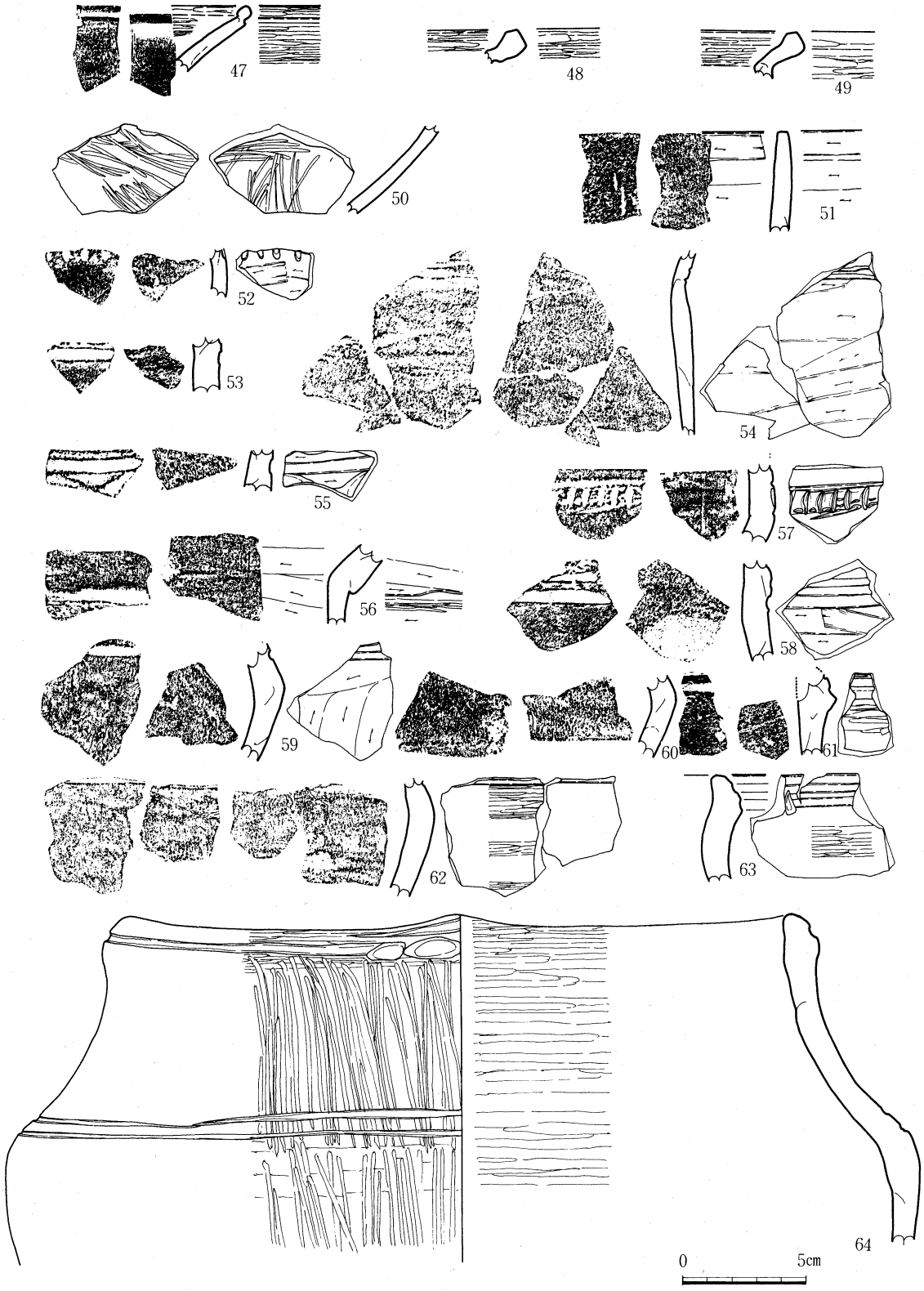
調査の結果、北側先端部に遺物の集中して存在することが確認されたが、本来すでに削平されている南側が中心地であったと推定される。なお、遺物の出土レベルは180.0～179.5mに相当し、台地の先端にかけて傾きが見られた。

遺物の集中は、2箇所で確認され、東側よりE5、E6区と呼んでいる。

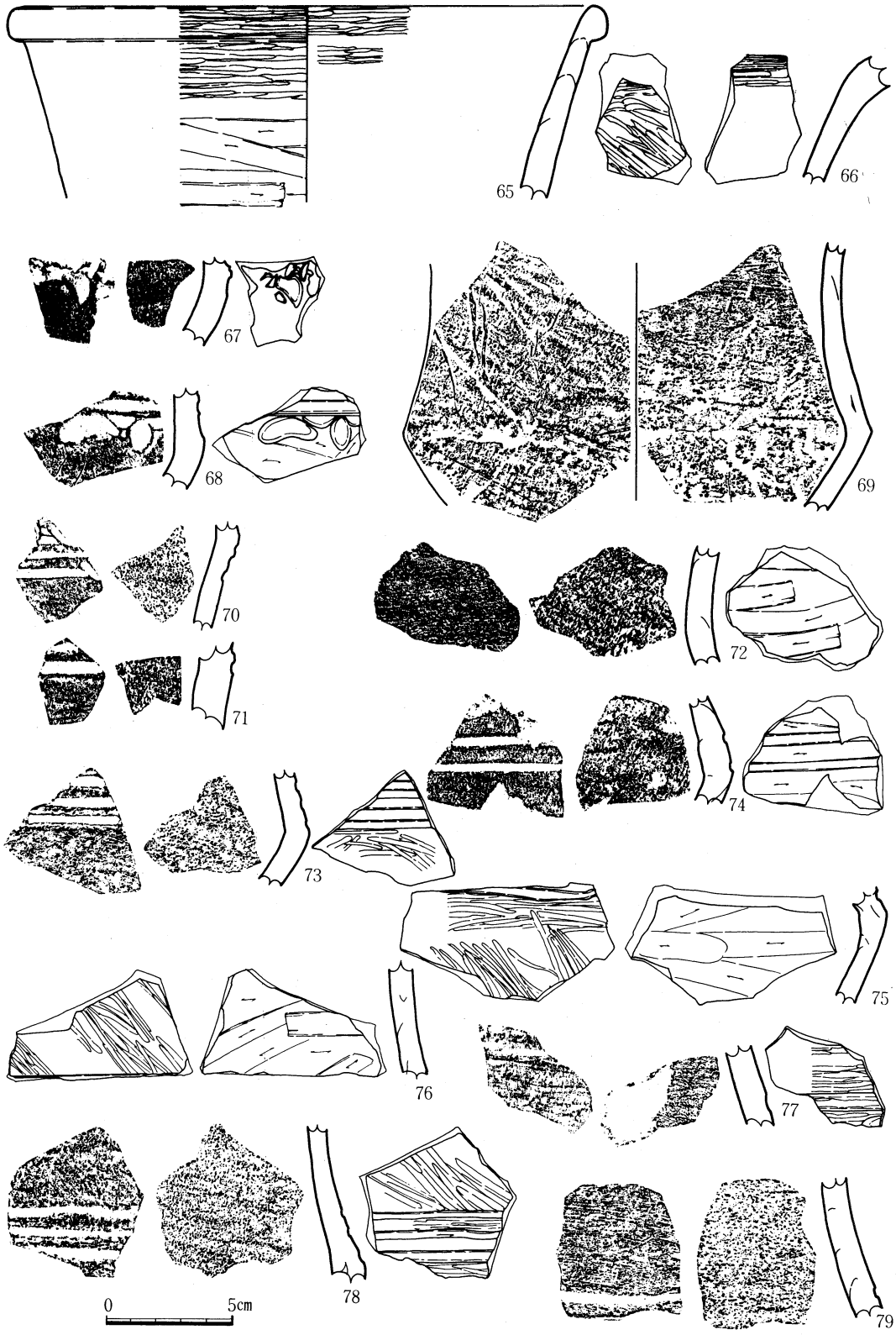
E5区からは縄文時代晩期、E6区からは奈良～平安時代に相当する遺物が出土している。なお、E5区では、2～3層の上部に、E6区では、2層から出土している。

遺構は確認しておらず、遺物の採取はD地点と同様である。

このE地点についても、D地点と同様盛土工法により保存することとなり、60～120cmの盛土が遺物検出面の上位に行われている。



第９図　Ｅ１地区出土遺物



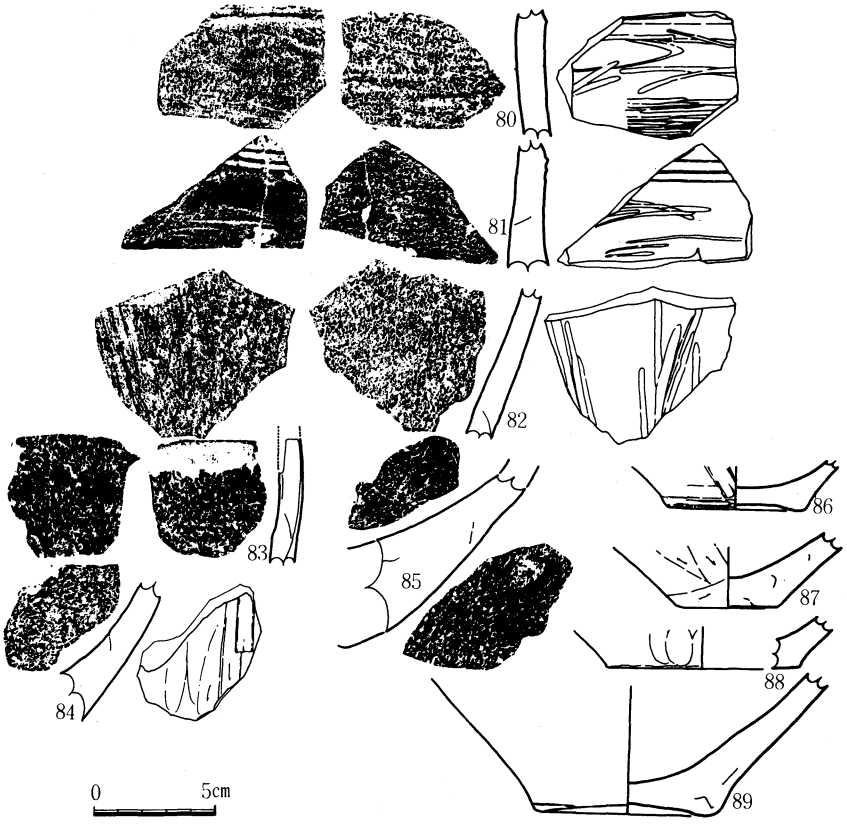
第10図　E１地区出土遺物

井手間遺跡土器観察表

No.	取上No.	レベル(m)	器種	精粗	調整	出土区	備考
50	II層	——	浅鉢	精	外：ケンマ 内：ケンマ	E－1	傾き不明。ケンマは丁寧。灰色。薄手硬質。
51	66	179.50	鉢	粗	外：工具ナデ 外：工具ナデ	E－1	口縁部。傾き不明。砂粒を多く含み、器面はザラザラ。やや軟質。
52	II層	——	鉢 (小)	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。凹点はヘラによる。接合面が明瞭に観察できる。砂粒を多く含み、器面はザラザラ。小型の鉢形土器？
53	9	180.11	鉢	粗	外：ナデ 内：ナデ	E－1	部位、傾き不明。凹線はヘラによる。粗の砂粒を多く含み、器面はザラザラ。
54	63	179.50	鉢	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	傾き不明。外面の調整は粗、内面のナデは丁寧。２本以上の沈線を持つ。灰色。
55	28	179.99	鉢	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	部位、傾き不明。ヘラによる浅い沈線で、横・斜め位に描く。外面にスス付着。粗の砂粒を多く含み、器面ザラザラ。
56	67	179.47	鉢	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	口縁部？傾き不明。肥厚部は張り付け。一部にヘラケンマが認められる。外面に少量のスス付着。
57	52	179.66	鉢	粗	外：ナデ 内：工具ナデ	E－1	部位不明。刺突具は鋸歯状？長石・石英を多く含む。小型鉢形土器？
58	11	180.04	鉢	精	外：ナデ 内：ナデ	E－1	口縁部？傾き不明。ヘラによる浅い凹線。長石・石英を多く含む。頸部？外面に少量のスス付着。
59	57	179.61	鉢	精	外：ナデ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。沈線は深くて明瞭。外面に多量のスス付着。砂粒を多く含み、特に内面はザラザラ。厚手やや軟質。
60	38	180.00	鉢	粗	外：ナデ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。特に角閃石が目立つ。厚手やや軟質。
61	58	179.54	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	口縁部、傾き不明。粗の砂粒を多く含む。赤褐色、やや軟質。
62	48 56	179.77 179.61	鉢 (小)	精	外：ナデ後ケンマ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。沈線はヘラによる。接合面が明瞭に観察できる。厚手。小型の鉢形土器。
63	III層	——	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	口縁部、口唇部は稜を持つ。部分的に凹点を施す。砂粒を多く含み、器面はザラザラ。特に角閃石が目立つ。
64	21	179.97	鉢	精	外：ケンマ 内：ケンマ	E－1	一括資料。復元口径27cm。波状口縁。口縁部頂部の下位は凹点。ケンマは縦位。外面に多量のスス付着。
65	14	180.02	鉢	精	外：ナデ後ケンマ 内：ケンマ	E－1	一括資料。復元口径23.4cm。肥厚口縁。ケンマは横位。内面の剝脱は激しい。やや軟質。外面にスス付着。
66	34	179.75	鉢	精	外：ケンマ 内：ケンマ	E－1	傾き不明。外面のケンマは不規則。粘土板の接合による整形。長石、角閃石を多く含む。
67	43	179.75	鉢 (小)	精	外：ナデ 内：ナデ	E－1	傾き不明。ヘラによる連続凹点。外面のナデはていねい。厚手やや軟質。小型鉢形土器？
68	III層	——	鉢	精	外：ナデ 内：ナデ	E－1	傾き不明。ヘラによる凹線文施文の後、指頭による凹点文。外面に少量のスス付着。小型鉢形土器？
69	64	179.49	鉢 (小)	粗	外：工具ナデ 内：工具ナデ	E－1	復元胴形18.2cm。内面に多量の煮こぼれ付着。多量の砂粒を含み、器面ザラザラ。
70	13	180.03	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	傾き不明。ヘラによる浅い沈線の後、同一工具で短沈線。粗の砂粒を多く含み、器面ザラザラ。
71	7	180.26	鉢	精	外：ナデ 内：ナデ	E－1	傾き不明。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。厚手やや軟質。
72	41	180.26	鉢	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。長石を多く含む。硬質。
73	10	180.02	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	３本以上の浅い凹線文。粗の砂粒を多く含み、特に内面はザラザラ。赤褐色、硬質。
74	III層	——	鉢	精	外：ナデ 内：ナデ	E－1	２本以上の浅い凹線文。砂粒を多く含み、特に金雲母が目立つ。やや軟質。外面のナデはていねい。

井手間遺跡土器観察表

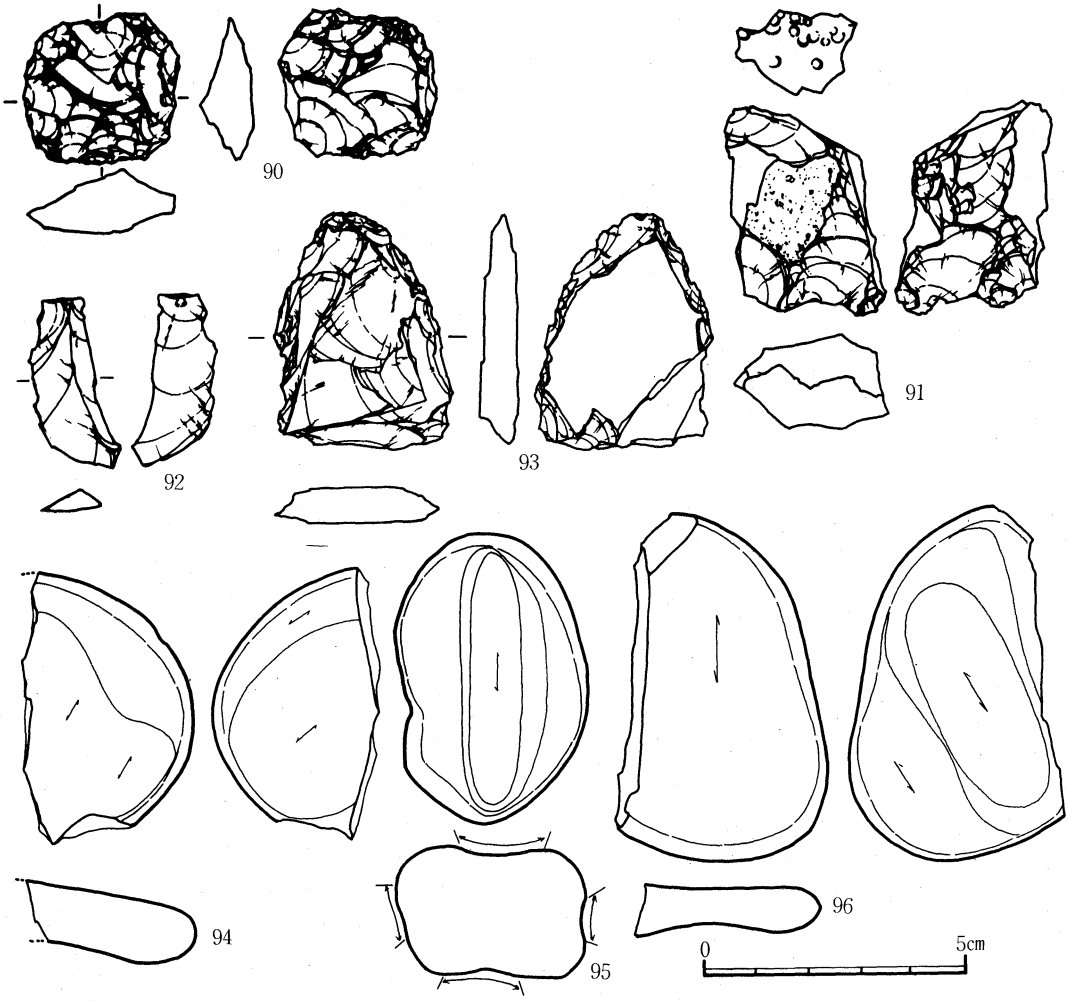
No.	取上No.	レベル(m)	器種	精粗	調整	出土区	備考
75	25	179.90	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。内面は剝脱が著しく、砂粒が多くザラザラ。接合面が明瞭に観察できる。
76	35	179.74	鉢	精	外：ケンマ 内：工具ナデ	E－1	傾き若干不明。硬質。
77	40	180.04	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	部位、傾き不明。指頭による浅い凹線文。長石を多く含む。
78	40	180.04	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。ヘラによる浅い沈線が3本。長石・石英を多く含む。薄手・硬質。
79	4	180.30	鉢	精	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。ヘラによる浅い沈線が2本以上。外面は擦過を伴う丁寧なナデ。硬質。
80	33	179.86	鉢	精	外：工具後ケンマ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。外面は擦過を伴うナデの後ケンマ。長石を多く含む。硬質。
81	II層		鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	傾き若干不明。ヘラによる浅い沈線が3本以上。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。厚手、硬質。
82	44	179.94	鉢	精	外：ケンマ 内：ナデ	E－1	胴部下位。外面のケンマは縦位。内外にスス付着。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。
83	12	180.02	鉢	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	接合面が明瞭に観察できる(粘土板使用)。内外ともに、風化が激しい。
84	51	179.67	鉢	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	胴部下位。10mm程の小礫を多く含む。内面にスス付着。
85	42	180.02	鉢	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	底部近く、丸底の可能性が高い。



第11図　E1地区出土遺物

井出間遺跡土器観察表（Ｅ－１区）

No.	取上No.	レベル(m)	名称	石材	備　　考
90	29	179.93	ピエス・エスキーユ（楔形石器）	チャート	不定形な剥片を素材とし、ほぼ全周を作業部（刃部）としている。作業部の作出は表裏から入念に行う。
91	22	179.98	ピエス・エスキーユ（楔形石器）	チャート	厚手の不定形な剥片を素材とし、下端部を作業部とする。上部は平坦で、パンチ痕が残る。
92	8	180.21	剥片	頁岩	不定形剥片で縦長の形状を呈す。表裏に残る剥離痕は全て一定方向である。打面調整が認められる。
93	24	179.91	尖頭器？	粘板岩	両側縁の調整剥離より両面加工の尖頭器と認定し、下端が欠落したものと判断した。偏平な剥片を素材としている。
94	32	179.81	砥石？	砂岩	選択した偏平な素材を用い、一部周辺部の調整も見られる。表裏に摩耗痕が見られ、裏面は凹面をなす。
95	26	179.86	砥石？	真珠岩	厚手の円礫を素材とし、全周を摩耗面に用いている。特に、表裏と両側縁部では凹面をなし有溝状を呈している。
96	60	179.51	砥石？	砂岩	選択した偏平な素材を用い、一部周辺部の調整も見られる。表裏に摩耗痕が見られ、裏面は凹面をなす。

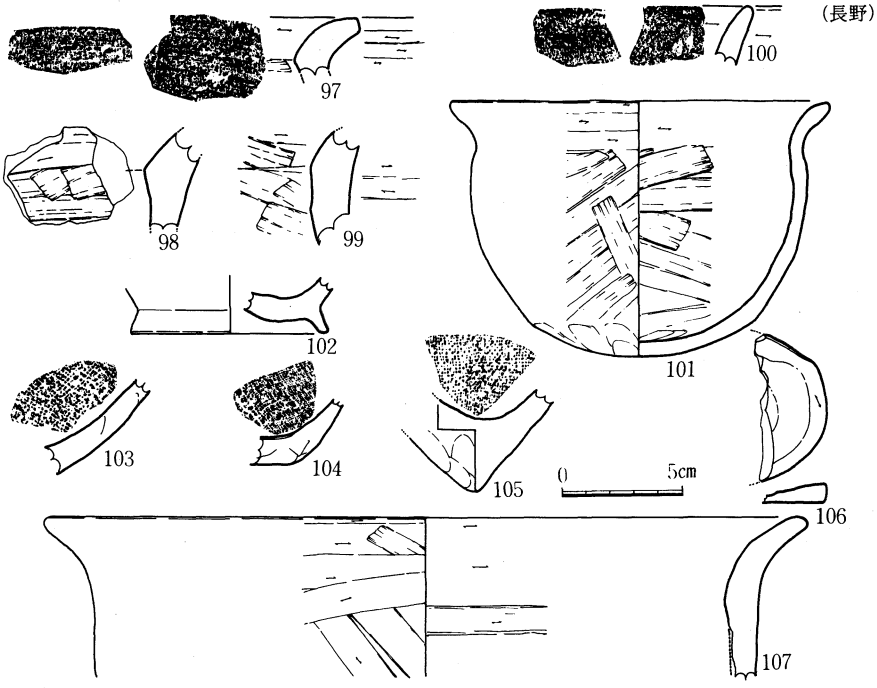


第12図　Ｅ１地区出土遺物

井手間遺跡土器観察表

No.	取上No.	レベル(m)	器種	精粗	調整	出土区	備考
86	27	179.89	鉢	精	外：工具ナデ 内：	E－1	やや上げ底で、浅鉢形土器？復元底径6.8cm。接地面及び外底部はナデ仕上げ。
87	50	179.68	鉢	精	外：ナデ 内：ナデ	E－1	若干上げ底。復元底径4.2cm。内面に煮こぼれ付着。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。
88	49	179.75	鉢	粗	外：工具ナデ 内：ナデ	E－1	平底。復元底径7.9cm。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。
89	45	179.89	鉢	精	外：ナデ 内：ナデ	E－1	上げ底。深鉢形土器？復元底径8.6cm。内外共にていねいなナデ。内面に煮こぼれ。外面に多量のスス付着。
97	12	179.45	甕		外：ハケ目 内：ヘラケズリ	E－2	口縁部。胴部内面はヘラケズリ。大型の甕形土器。外面に少量のスス付着。微細砂粒を多く含む。
98	II層		甕		外：ハケ目 内：ヘラケズリ	E－2	大型の甕形土器。微細砂粒を多く含む。
99	II層		甕		外：ハケ目 内：ヘラケズリ	E－2	大型の甕形土器。微細砂粒を多く含む。
100	9	179.55	甕		外：ハケ目 内：ハケ目	E－2	口縁部。若干不明。小型の甕形土器。内面に少量のスス付着。微細砂粒を多く含む。
101	11	179.49	甕		外：ナデ 内：ナデ	E－2	ロクロ使用。良質の胎土。灰色。
102	2	179.51	甕		外：ハケ目 内：ヘラケズリ	E－2	一括資料。小型の甕形土器。復元口径15.6cm。最大高10.5cm。硬質。褐色。
103	II層		甕		外：ナデ 内：ヌノメアツコン	E－2	5㎜程の小礫を多く含む。粗製の様相を呈している。内面は布目圧痕。赤褐色。軟質。
104	1	179.68	甕		外：ナデ 内：ヌノメアツコン	E－2	粗製の様相を呈している。内面は布目圧痕で103より目が小さい。肌色。軟質。
105	3	179.49	甕		外：ナデ 内：ヌノメアツコン	E－2	尖底。内面は布目圧痕。硬質。モミ痕と思われる物が圧痕（4個以上）。
106	II層		土製品		外： 内：	E－2	土器片の再利用。(紡錘車？)坏の底部の再利用？肌色。軟質。
107	5	179.51	甕		外：ハケ目 内：ヘラケズリ	E－2	大型の甕形土器。復元口径32.3cm。外面にスス付着。やや軟質。軽量。

(長野)



第13図　E２地区出土遺物

B地点

1．概要

B地点は、台地全体の中央部で割と広い東側や西側と比較すると若干狭くなった部分であり、北方向に傾斜している。南側には谷が存在し、また、北側の谷に向かって三角形状に張り出した部分である。西側にも谷が開析しており、その谷を隔てて反対側はE地点である。

B地点の標高は、南側が約182m、北側が若干低く約180mであり、北側の谷からの比高は約37mである。

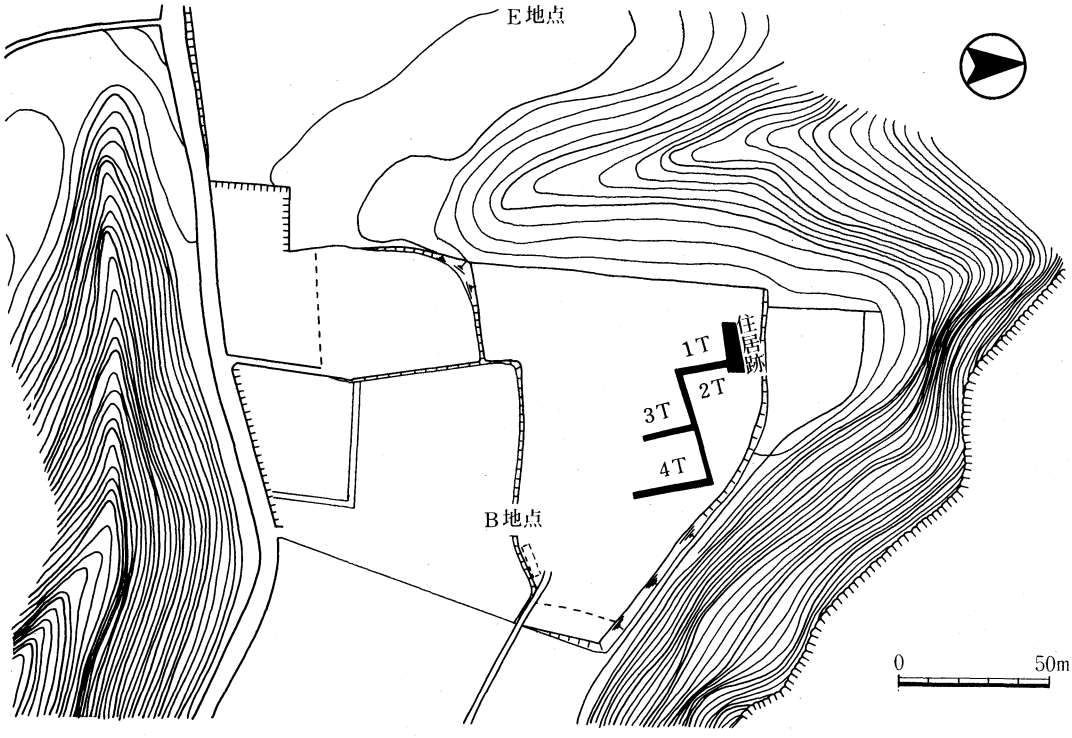
調査は台地全体に試穴を設けて掘り下げを実施し、遺物包含層の有無を確認した後、遺物包含層が残存している北側先端部に、直行するトレンチを4本（1T～4T）設定し、掘り下げを行った。

調査の結果、最も台地先端部の1トレンチで落ち込みを確認し、その部分を拡張して弥生時代の住居跡2軒を検出することができた。

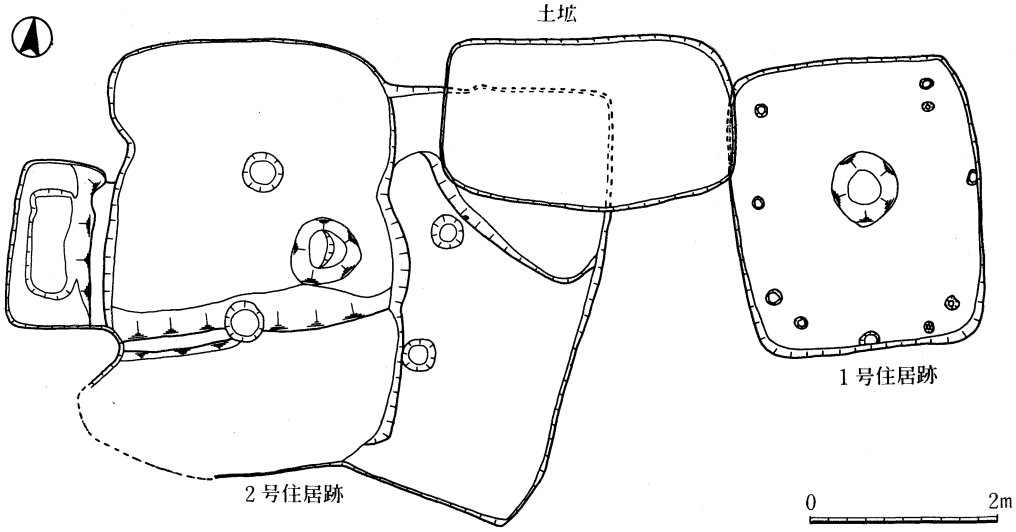
また東西に長い2トレンチでは遺物の出土がみられた。遺物は弥生時代のものが主であり、トレンチの東側でわずかに縄文時代晩期と思われるものも認められた。またピット状の遺構も検出された。

B地点では、中央部分は遺物包含層が削平等によって消失しており、北側の低くなった先端部分に遺物包含層が残存している状況であり、遺構及び遺物が検出された。

B地点地形図



第14図　B地点トレンチ配置図



第15図　遺構配置図

2．検出遺構

台地北端部で2軒の住居跡と土坑を1基検出することができた。それらは互いに切り合い関係にあるものであった。また2トレンチではピットと思われる円形の落ち込み部分も確認した。

1）1号住居跡

表土下約60cmのアカホヤ火山灰層上面で検出された。表層（耕作土）の下は攪乱層であり、以前重機による削平が行われていた。その下は暗褐色土層がわずかに残存し、次に黄褐色アカホヤ火山灰層となる。

住居跡の埋土は、CDラインでは次のようであった。

1　暗褐色土。わずかに黄褐色粒子がみられる。

2　暗褐色土。黄褐色のアカホヤブロックが点在している。

3　黒褐色土。よく締まっている。アカホヤブロックはほとんどみられない。

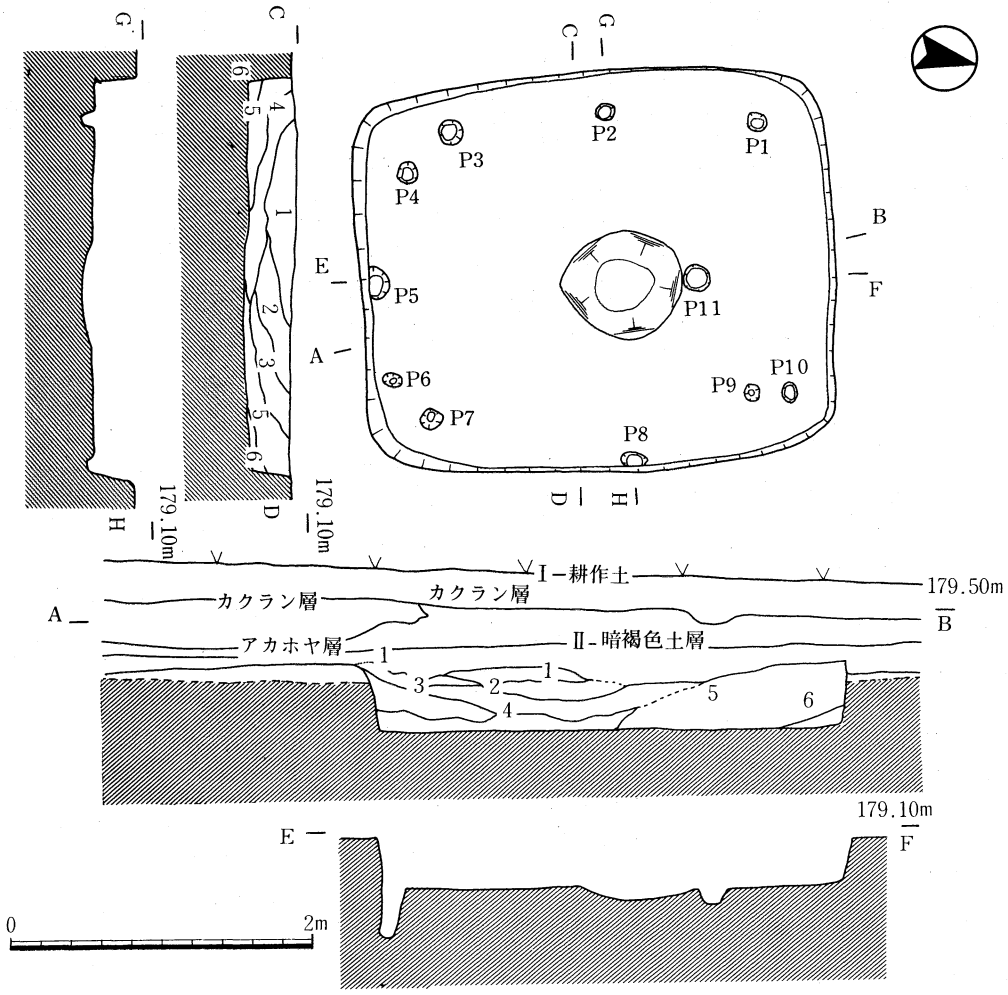
4　黒褐色土。よく締まっている。中央付近にアカホヤブロックがある。

5　暗黄褐色土。径3～8cmのアカホヤブロックが多量に混在している。

6　黒褐色土。

このように、アカホヤのブロックを多量に含む土が、埋土の最初の段階で堆積していたことは、注意すべきことである。すなわち竪穴住居を掘る時点で、掘り上げた土（アカホヤ）を竪穴の周囲に高く囲むように積み上げていたことが想定されよう。

住居跡は方形を呈し、南北3.1m、東西2.65mを測り、南北方向に若干長い。検出面からの深さは35cmであり、床面は硬く踏み締められておりほぼ平坦である。壁面の立ち上がりは垂直に近い。



第16図　1号住居跡土層断面・セクション図

床の中央部には、浅い掘り込みを有する径80×70cmの炉があり、赤褐色の焼土がみられた。

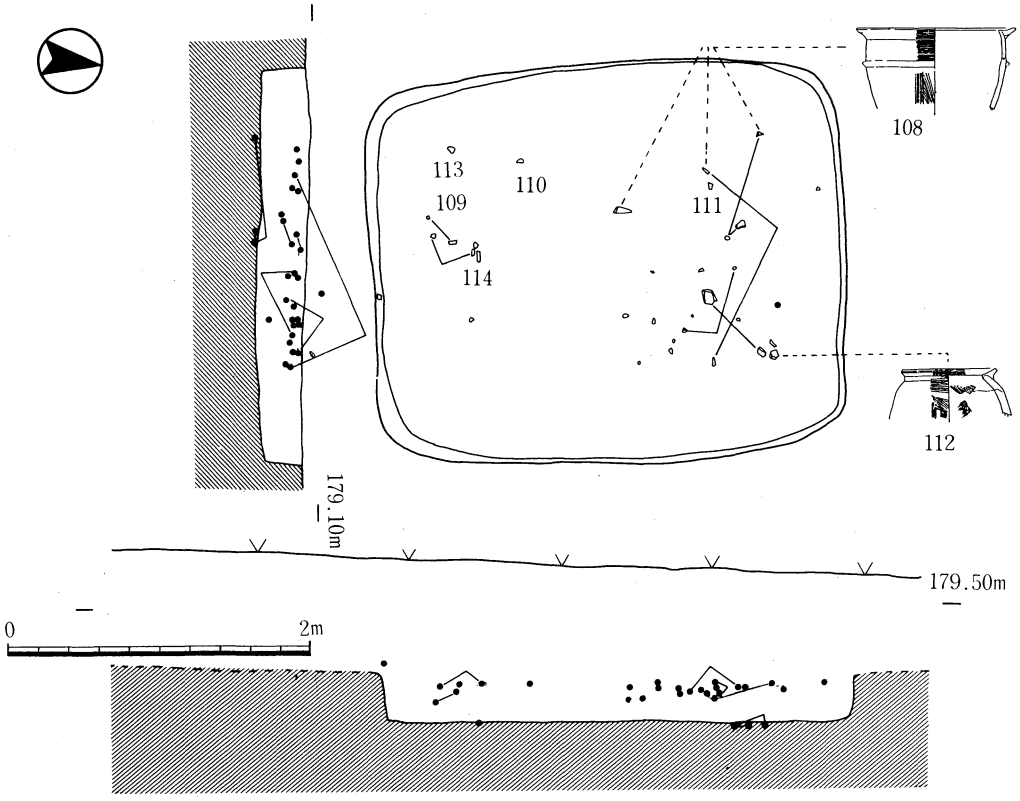
ピットは小さくて浅いものが壁近くに10個と、炉の北側に1個検出された。各ピットの床面からの深さは次のとおりである。P1－10cm、P2－11cm、P3－12cm、P4－10cm、P5－37cm、P6－10cm、P7－8cm、P8－8cm、P9－5cm、P10－5cm、P11－10cm。

このように各ピットの深さは10cm前後と浅く、壁に接したP5のみが他と比較して深いものであった。各ピットの埋土は、やわらかく粘性のない黒褐色土であった。

出土遺物

埋土中から出土した遺物は、多いものではなかったが、甕形土器や壺形土器がみられた。遺物は、床面に接して出土したものも若干あるが、大部分は埋土の上部で出土している。

第18図108は復元口縁径約21cmを測る甕形土器で、最大径は口縁部にある。口縁部は「く」の字形に屈曲するが、その立ち上がりは弱い。口縁上面はやや凹み、先端部へむけてはね上が



第17図　1号住居跡遺物出土状況

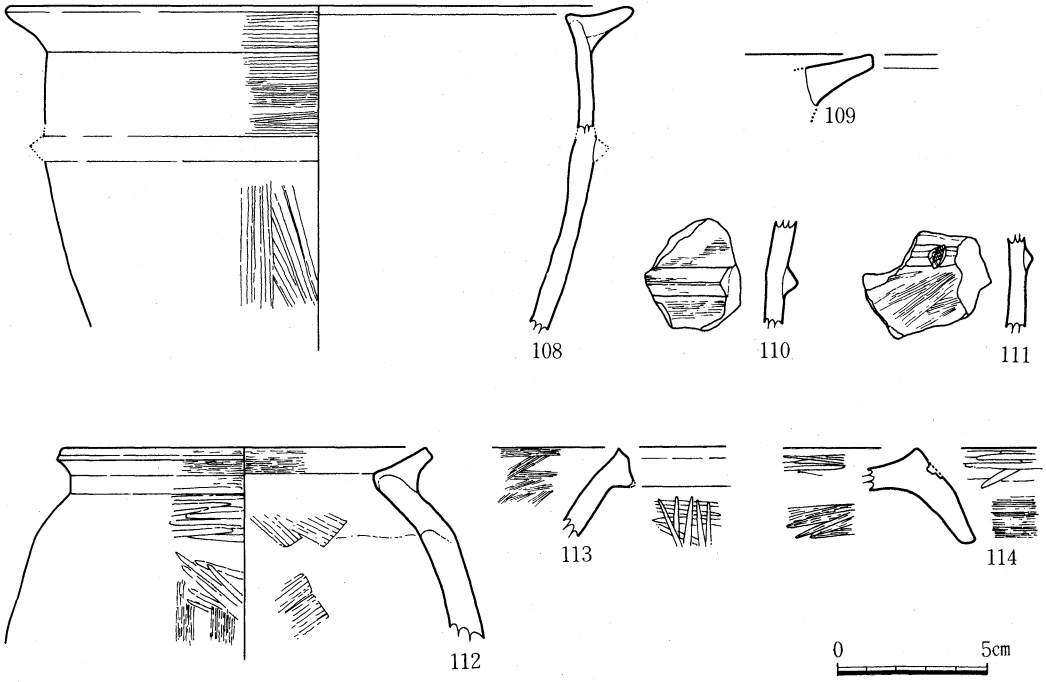
り気味に短くのびて端部は丸くおさめる。屈曲部内側は、やや張り出し気味になり、明瞭な稜線をつくる。胴部上位には突帯が付けられていたらしいが、接着部で剝落しており、痕跡だけが残っている。器面調整はハケ目の後ナデ調整が施されている。器壁は比較的うすく、色調は淡黄褐色を呈する。胴部に突帯が付くものの、口縁及び器形の特徴は松木園O式に類似する。

109は「く」の字形の甕形土器口縁部であり、接合部で剝落している。口縁はやや長くのび端部は平坦である。110・111は甕形土器の胴部片であり、110は三角突帯が、111は刻目突帯があり、刻目には布目の痕跡がみられる。

112は復元口縁径約12cmを測る甕形土器であり、最大径は胴部にある。口縁部は「く」の字形に屈曲し、口縁は短く端部は平坦状で凹線が廻る。頸部でしまり、屈曲部内側は大きく張り出している。器面調整は外面がミガキ、内面はハケ目後ナデ調整が施される。

113・114は壺形土器の口縁部である。113は外反する口縁直下に三角突帯が廻るものであり、外面はミガキ、内面はハケ目調整が施されている。114は大型の壺形土器と思われ、口縁径は30cm以上になると考えられる。口縁は逆「L」字形に屈曲して垂れ下がり、長く伸びる。端部は平坦状になり、凹線が廻る。器面調整は口縁上面がミガキ、外面はハケ目後ナデ調整が施される。

出土した土器の胎土は、石英・長石・角閃石を含み、焼成は良好である。



第18図　1号住居跡出土遺物

2）2号住居跡

2号住居跡は、1号住居跡の西側のアカホヤ火山灰層上面で検出された。表層（耕作土）の下は重機による攪乱を受け、住居跡の一部も深く削られていた。

住居跡の埋土は次のとおりである。

1　黒褐色土。

2　暗褐色土。径1～5cmのアカホヤブロックが混在している。

3　4、5、6層はアカホヤブロックの量や、色調の若干の違いで区別している。

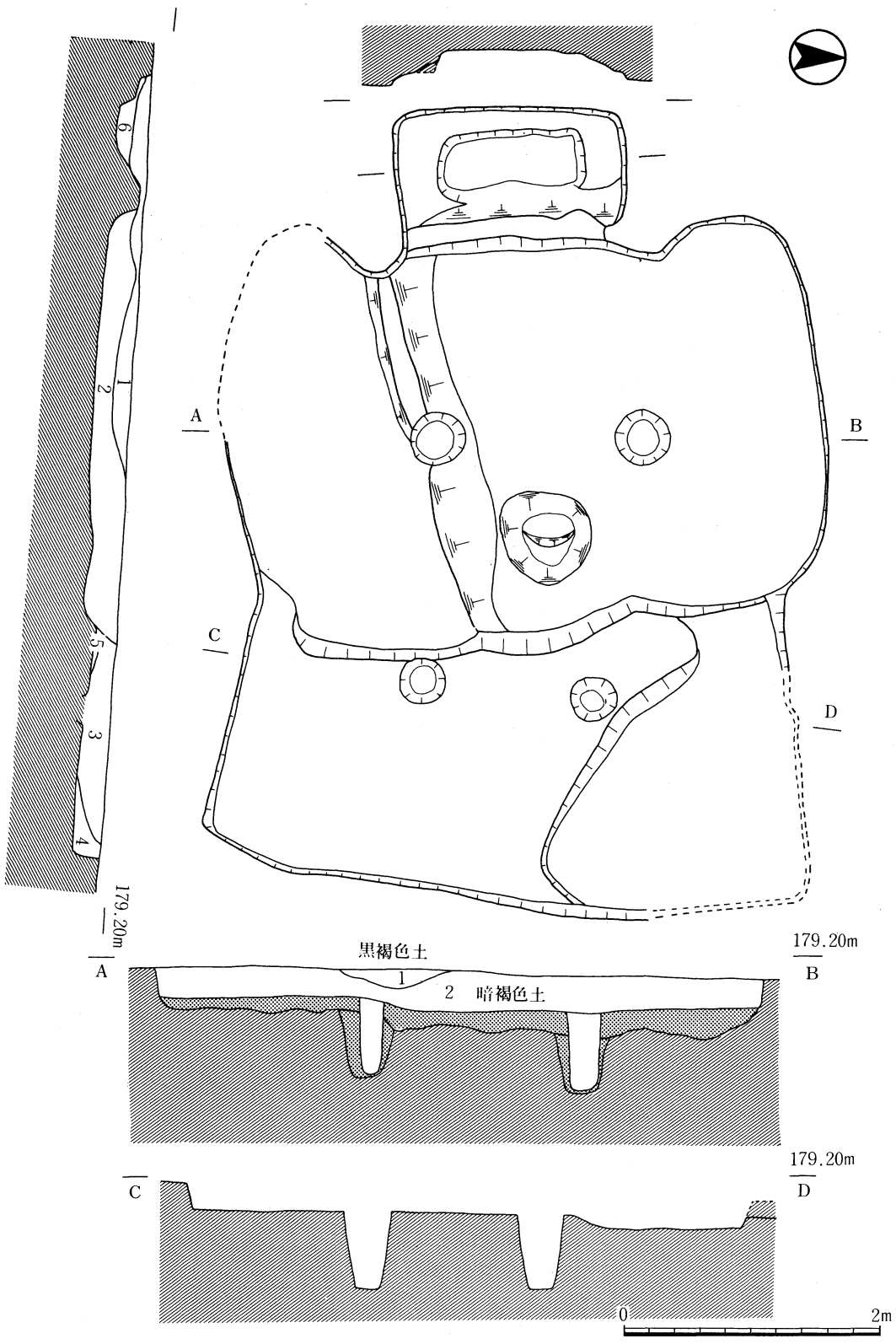
1号住居跡と同様に、埋土にはアカホヤブロックが多く混在していた。

住居跡の長軸は東西方向であり、最大長6.2m、南北方向は4.7mを測る。平面形は、東側が方形を呈し、西側は両側とも弧状に張り出して楕円形状となり、西側の中央には長方形の張り出しを有する独特な形状である。東西を中心線としてみた場合、左右がほぼ対称形となっている。

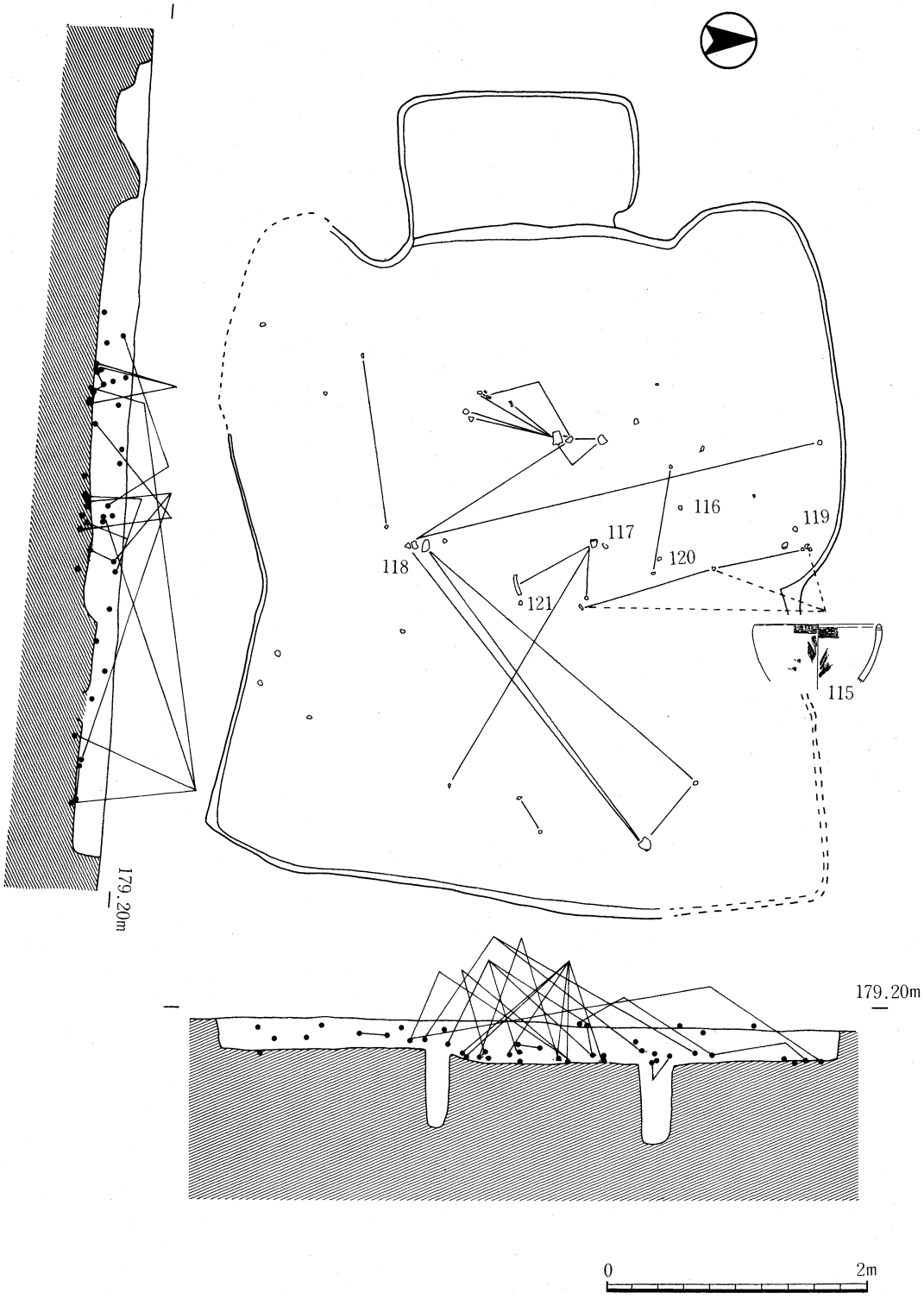
床面の深さは各部分によって異なり、東側方形部分より西側楕円形部の方が一段低い床面となっている。また西側楕円形部分も、南側より北側の方が一段低くなる。

床面は方形部が硬く踏み締められたアカホヤ面であるのに対し、西側の楕円形部は、掘り込みが深く、その上に約3～5cm厚の張り床の構造になっている。

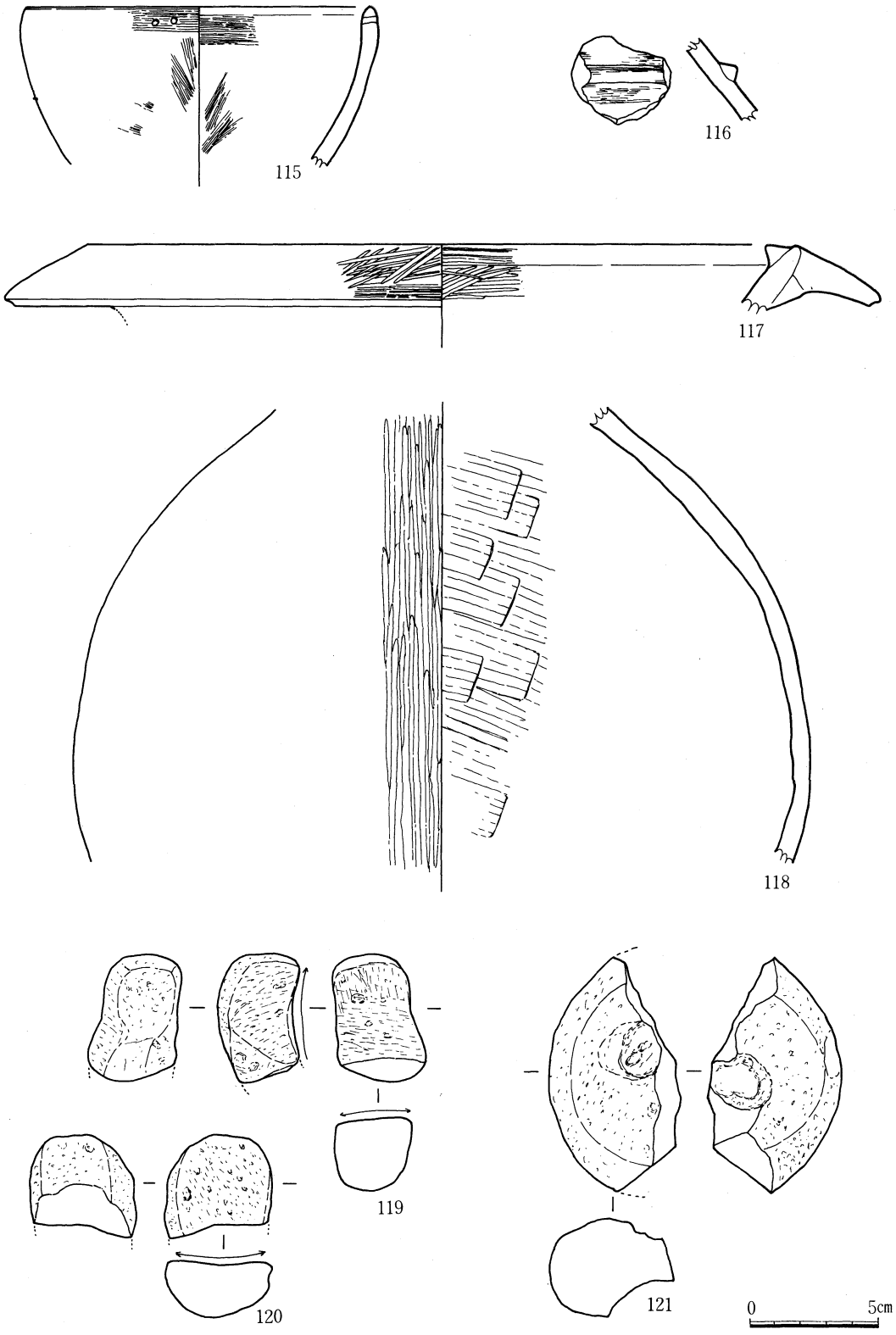
柱穴は対角線上に4本検出された。それらの断面を断ち切ったところ、実際の柱穴の掘り込みは、径約4cmと大きく柱を入れた後、張り床を作っている状況が理解された。



第19図　2号住居跡土層断面図・セクション図



第20図　2号住居跡遺物出土状況



第21図　2号住居跡出土遺物

住居後の中央部には、掘り込みを有する炉が検出され、炭化物粒子が多くみられた。

西側の長方形状の張り出し部分は、中央が長方形状に深くなる。また、楕円形部分とこの張り出し部との間にはカマボコ状の壁がつくられている。

出土遺物

埋土中から鉢形土器、壺形土器、軽石製品が出土した。

第21図115は復元口縁径13.5cmを測る鉢形土器である。口縁はやや内弯し、口縁端部はまるく納める。胴部は丸味をもつ。口縁直下には、径約2㎜の穿孔が接近した位置に2ケ所穿がたれている。器面調整は内外面ともハケ目後ナデ調整が施されている。

116は壺形土器の胴部片であり、三角突帯が廻るものである。ハケ目調整が施されている。

117は復元口縁径34cmを測る大型の壺形土器である。口縁は逆L字状に外反し、屈曲部内側には三角突帯が廻る。器面調整はヘラミガキ調整である。胎土には石英・長石・角閃石のほか多量の金雲母を含んでいる。118は壺形土器の胴部片である。膨む胴部で頸部はしまる。

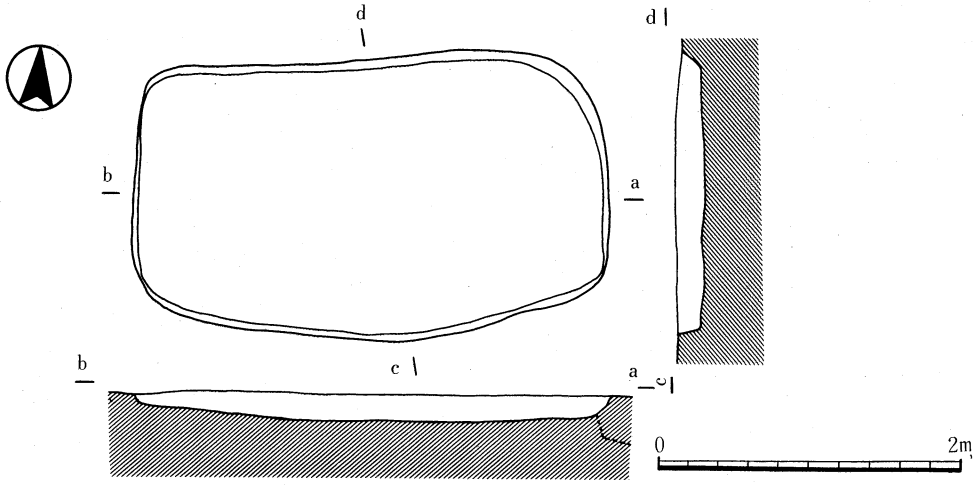
119～121は軽石製品である。119•120はゆるやかなカーブを持つ平坦面を有するものであり、すった痕跡が認められる。121は円形の礫と思われるものの中央に、両面とも凹みがみられるものである。

3）土坑状遺構

住居跡1・2の中間の位置にあり、両方の住居跡と切り合い関係にある。土層断面を検討した結果、両方の住居跡より新しいことが判明した。平面形は3.1m×1.9mの長方形を呈し、長軸方向は東西方向である。

壁の立ち上がりはゆるやかであり、下面はほぼ平坦でやや硬い面となっていた。検出面からの深さは約15cmを測る。

遺物は出土しなかった。



第22図　土坑状遺構 平・断面図

3．トレンチ出土遺物

台地先端部に設定したトレンチのうち、第２トレンチ中央部で遺物が出土した。第１トレンチは、表土（耕作土）の下は攪乱層であり、その下はアカホヤ層であった。しかし第２トレンチでは攪乱層の下に厚さ約10～15cmの黒褐色土層の遺物包含層が良好な状態で残存していた。

遺物は弥生時代のものが主であったが、トレンチの東側では縄文時代晩期のものもみられた。

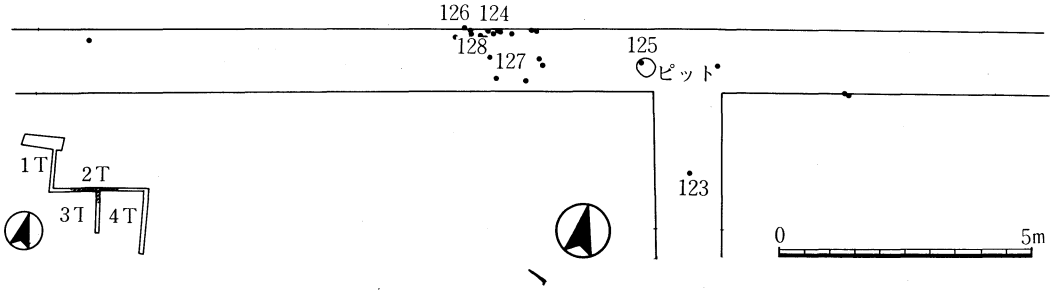
第24図122～129は弥生時代のものである。122は甕形土器の逆Ｌ字状に外反する口縁部であり、端部に凹線が廻るものである。

123・124は甕形土器の胴部片と思われるもので、器面調整はヘラミガキ調整が施される。

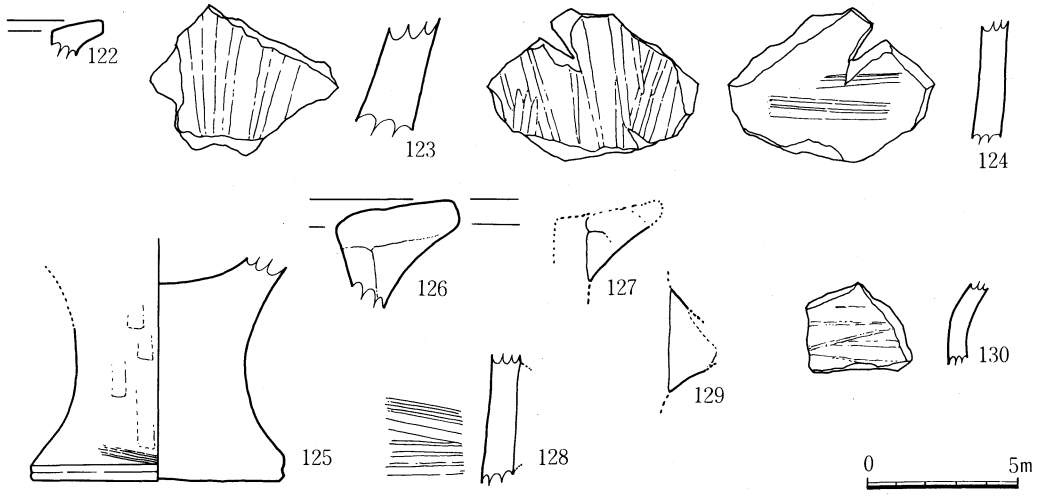
125は充実した脚台であり、底面の中央がわずかに凹む。裾部の端部には凹線が廻る。器面調整はハケ目の後ナデ調整が施されている。

126～129は、大型甕形土器と思われるもので、126は逆Ｌ字状に外反する口縁部であり、127は口縁の接着面で剝落している。128は胴部上位で三角突帯が剝落している。129は剝落した胴部の三角突帯である。これらの胎土には石英・長石・角閃石・細礫を含む。

130は縄文時代晩期の鉢形土器と思われるもので、外反する口縁直下部と思われる。（宮田）

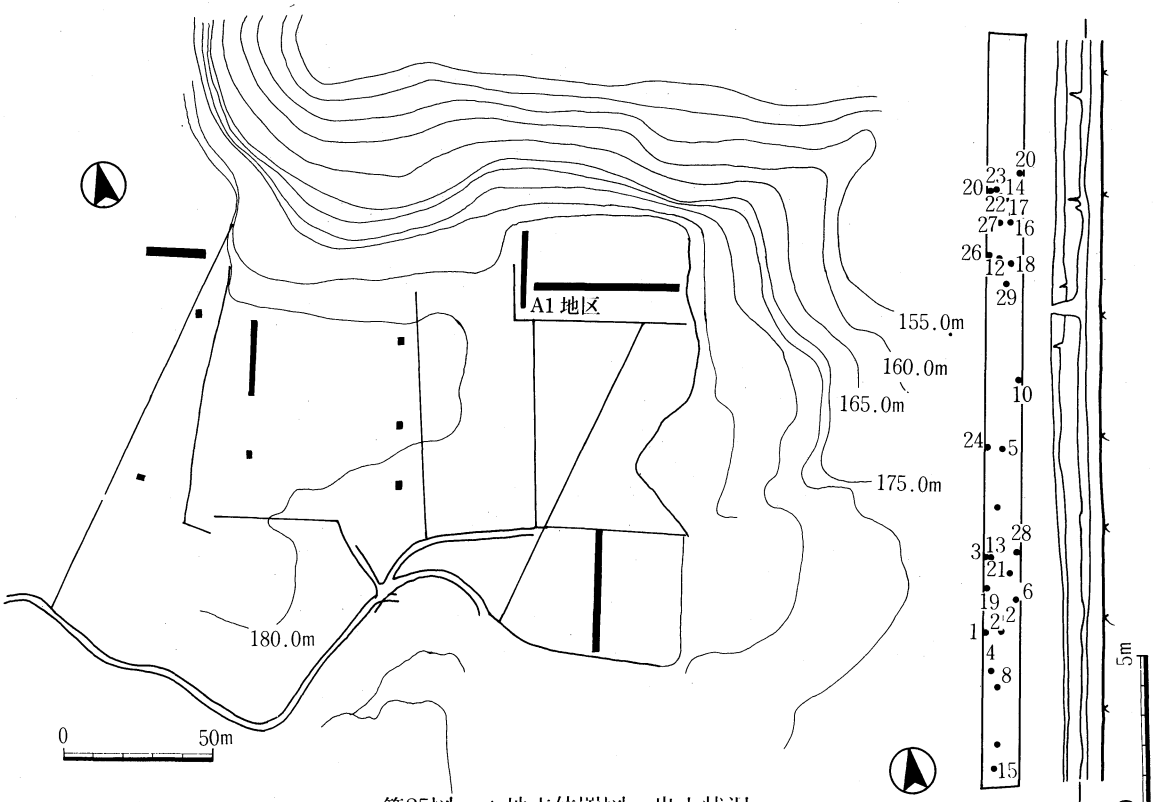


第23図　Ｂ地点第２トレンチ遺物出土状況



第24図　Ｂ地点第２トレンチ出土遺物

第2節　山ノ田遺跡



第25図　A地点位置図・出土状況

一般地方道飯野・松山・都城線を挟み、その東側が山ノ田遺跡である。

対象地は、標高179～181m程で平坦な地形を成している。これらは、畑地拡大による削平により造りだされたものである。

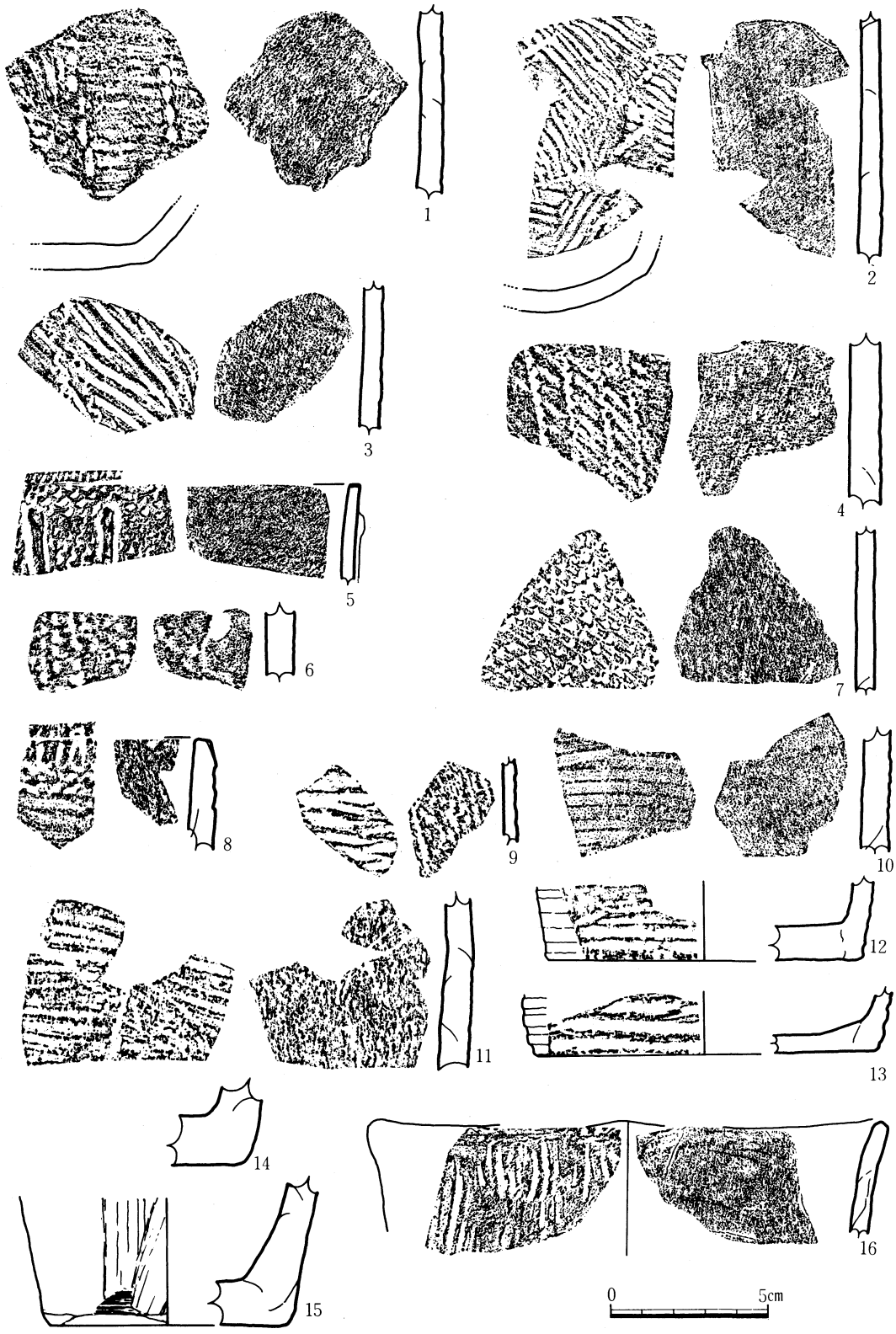
確認調査の結果、最も東端に伸びた台地の先端部で良好な遺物包含地を確認した。

遺物の出土は4～5層で、出土レベルは177.0m程である。したがって、現況での保存が可能であることより現地保存が図られている。

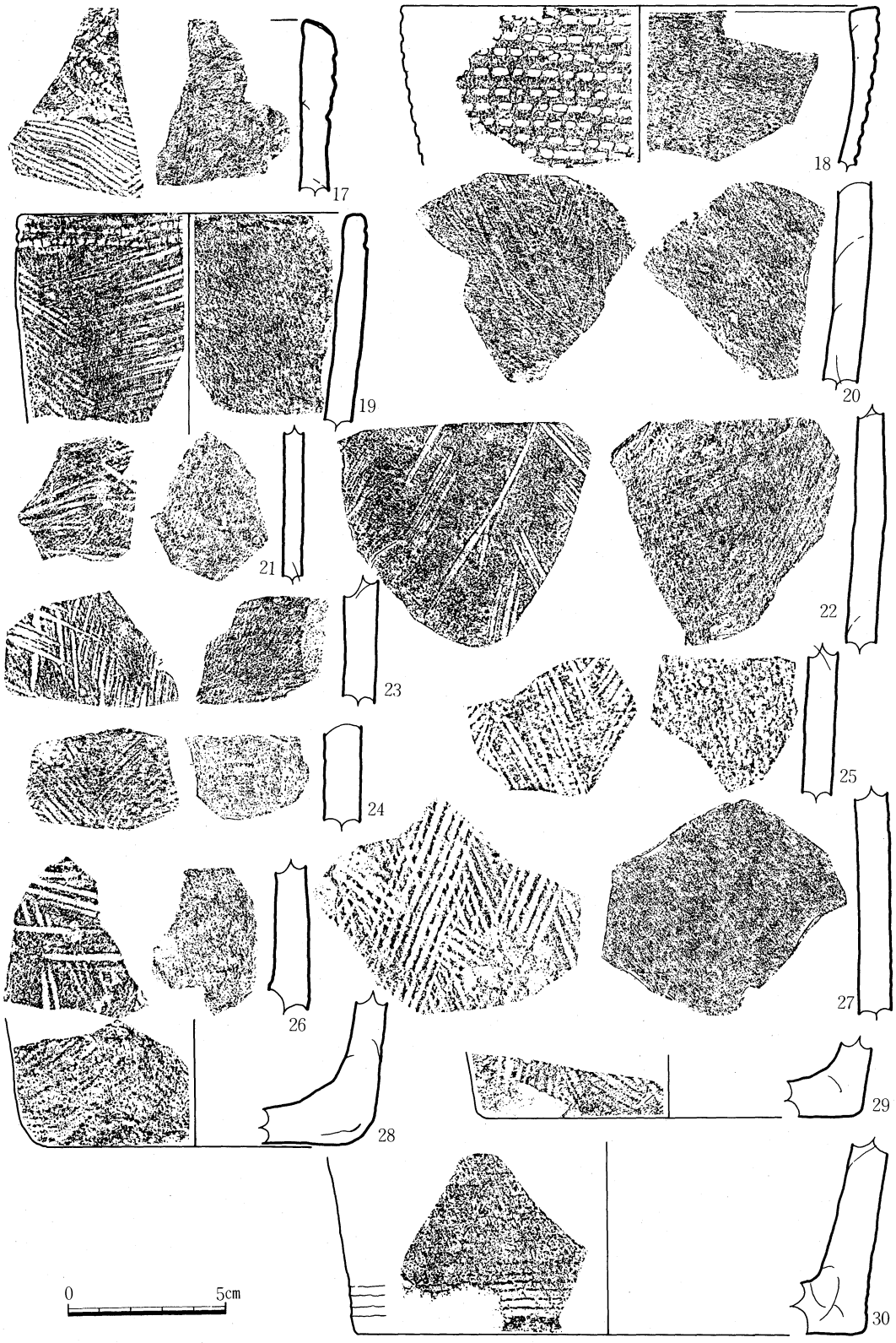
出土遺物は、縄文時代早期の貝殻文円筒形土器（円筒形・角筒形土器）である。

山ノ田遺跡土器観察表

No.	取上No.	レベル(m)	器種	調整	出土区	備　　考
1	5	177.09	深鉢(角)	外：条痕 内：ナデ	A－1	規則性のあるやや斜めの貝殻条痕、その後、同工具に近い物で縦位の刺突。薄手、硬質。砂粒多く、器面ザラザラ。
2	7 8	177.07 176.96	深鉢(角)	外：条痕 内：条痕	A－1	規則性のあるやや斜めの貝殻条痕、その後、4筋の貝殻腹縁部を刺突。内面は縦位の整形。薄手硬質。胎土は良質。
3	13	177.03	深鉢(角)	外：条痕 内：条痕	A－1	規則性のあるやや斜めの貝殻条痕、その後、貝殻腹縁部を刺突。内面は縦位の整形。薄手硬質。砂粒多く、器面ザラザラ。
4	4	177.04	深鉢(角)	外：条痕 内：条痕	A－1	規則性のあるやや斜めの貝殻条痕、その後、貝殻腹縁部を刺突。内面は縦位の整形。厚手硬質。砂粒多く、器面ザラザラ。
5	15	176.60	深鉢(円)	外：ナデ 内：ナデ	A－1	口縁部。口唇部は平坦で規則性のある縦位の刻み目を施す。縦位に貝殻腹縁部を刺突後、縦位の契。薄手、硬質。



第26図　A地区出土遺物



第27図　A地区出土遺物

山ノ田遺跡土器観察表

No.	取上No.	レベル(m)	器種	調整	出土区	備考
6	9	179.98	深鉢(円)	外：ナデ 内：ナデ	A－1	貝殻腹縁部の連続刺突。厚手硬質。砂粒多く、器面ザラザラ。内外共に、風化が激しい。
7	V層		深鉢(円)	外：条痕 内：条痕	A－1	規則性のあるやや斜めの貝殻条痕、その後、貝殻腹縁部を刺突。内面は縦位の整形。薄手硬質。砂粒多く、器面ザラザラ。
8	3	177.14	深鉢(円)	外：ナデ 内：ナデ	A－1	口縁部。口唇部は平坦。口唇部直下に縦位の刻み。その下位に貝殻腹縁部を横位に連続して刺突。胎土は良質。
9	V層		深鉢(円)	外：ナデ 内：条痕	A－1	規則性のあるやや斜めの貝殻条痕、条痕は深くて明瞭。内面は縦位の整形。薄手硬質。砂粒多く、器面ザラザラ。
10	17	176.56	深鉢(円)	外：ナデ 内：ナデ	A－1	規則性のある横位の貝殻条痕、条痕は深くて明瞭。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。
11	V層		深鉢(円)	外：条痕 内：条痕	A－1	横及び斜位の貝殻条痕。条痕は深くて明瞭。内面は縦位の整形。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。硬質。
12	20	176.92	深鉢(円)	外：ナデ 内：ナデ	A－1	底部。復元底径10.0cm。規則性のある横位の貝殻条痕、条痕は深くて明瞭。接地面は平坦面。胎土は良質。硬質。
13	12	176.98	深鉢(円)	外：条痕 内：条痕	A－1	底部。復元底径10.0cm。規則性のある横位の貝殻条痕、条痕は深くて明瞭。接地面は平坦面。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。
14	26	176.78	深鉢(円)	外：条痕 内：ナデ	A－1	底部。内外共に風化が激しい。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。やや軟質。
15	1	176.94	深鉢(円)	外：条痕 内：ナデ	A－1	底部。復元底径7.6cm。内外面ともに縦位の整形。接地面は条痕仕上げで平坦面。厚手、硬質。
16	22	176.94	深鉢(円)	外：条痕 内：工具ナデ	A－1	口縁部。口唇部は平坦面。波状口縁形。復元口径16.3cm。縦位の条痕、条痕は深くて明瞭。薄手、硬質。
17	24	176.90	深鉢(円)	外：条痕 内：条痕	A－1	口縁部。傾き若干不明。口唇部は丸みを持ちながら、外に傾斜。貝殻腹縁部の刺突。条痕は深くて明瞭。薄手、硬質。
18	19	176.96	深鉢(円)	外：ナデ 内：ナデ	A－1	口縁部。傾き若干不明。口唇部は平坦でやや内傾。復元口径15cm。貝殻腹縁部を横位に刺突。薄手、硬質。ナデはていねい。
19	10	177.05	深鉢(円)	外：条痕 内：条痕	A－1	口縁部。口唇部はやや丸みを持つ。復元口径11.0cm。口縁直下に２条の貝殻腹縁部の刺突。条痕は綾杉状。硬質。
20	28	176.80	深鉢(円)	外：条痕 内：条痕	A－1	条痕の方向は不規則。外面にスス付着。内面は条痕後ナデ仕上げ。厚手、硬質。胎土は良質。
21	12	176.98	深鉢(円)	外：ナデ 内：条痕	A－1	条痕の方向は不規則。薄手、硬質。胎土は良質。肌色。
22	25	176.77	深鉢(円)	外：ナデ 内：条痕	A－1	外面はナデの後、綾杉状に条痕を施す。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。硬質。
23	27	176.65	深鉢(円)	外：ナデ 内：条痕	A－1	外面はナデの後、綾杉状に条痕を施す。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。硬質。
24	16	176.83	深鉢(円)	外：ナデ 内：条痕	A－1	外面はナデの後、綾杉状に条痕を施す。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。赤褐色。厚手、硬質。
25	V層		深鉢(円)	外：ナデ 内：ナデ	A－1	外面はナデの後、綾杉状に条痕を施す。砂粒を多く含み、器面ザラザラ。赤褐色。厚手、硬質。
26	21	176.94	深鉢(円)	外：ナデ 内：ナデ	A－1	外面はナデの後、綾杉状に条痕を施す。条痕は粗であるが、深くて明瞭。厚手硬質。砂粒多く、器面ザラザラ。
27	23	176.84	深鉢(円)	外：ナデ 内：工具ナデ？	A－1	外面の条痕は斜位に交差し、深くて明瞭。内面の調整は丁寧。外面に少量のスス付着。砂粒を多く含む。赤褐色。厚手、硬質。
28	30	176.83	深鉢(円)	外：ナデ 内：条痕	A－1	復元底径10.0cm。接地面は平坦面。砂粒多く、器面ザラザラ。外面はナデの後、綾杉状に条痕を施す。硬質。
29	18	176.96	深鉢(円)	外：ナデ 内：条痕	A－1	復元底径12.1cm。接地面は平坦面。砂粒多く、器面ザラザラ。外面はナデの後、綾杉状に条痕を施す。硬質。
30	29	176.89	深鉢(円)	外：ナデ 内：条痕	A－1	復元底径16.0cm。接地面は若干上げ底気味。外面は規則性のある横位の条痕。接地面は丁寧ナデ。厚手、硬質。

第4章　ま　と　め

C地区

出土した土器は、縄文時代早期に位置づけられるもので、3つの文様構成が見られる。

第1に、1～3は薄手の土器で、円筒形を呈し、施文具に貝殻腹縁部を用いている。施文は、内外面共にていねいなナデ仕上げの後、腹縁部を単独に刺突する方法である。ちなみに2では、腹縁部を斜位に交差させ、3では斜位の同一方向に施文している。

小のような、貝殻腹縁刺突文を特徴的に持つものとして前平土器[1]、下剝峯II b類土器[2]の存在を指摘できる。しかし、1～3では、上記2土器と異なる個性も見られ、摘出してみたい。

前平式土器と対比してみると、円筒形で貝殻腹縁刺突文で施文し薄手に仕上げる土器である点は、極めて類似していると言える。しかし、前平式土器の大きな地文の条痕が認められず、この点で大きな相違が存在すると言える。

次に、下剝峯II b類土器とは、器形および器壁の厚さや制作の違いに相違点がある。

しだかって、これらを整理すると、最も前平式土器に近いことが分かる。一方、前平式土器とは地文の条痕の有無に違いのあることは先に指摘したとうりである。そこで、その相違点を特徴とする1タイプと捉えておきたい（薄手の器壁を成し、器形は円筒形で、角筒形の存在は不明である。ナデ整形の後、貝殻腹縁部により貝殻腹縁刺突文を施文する。）

6～24は手向山式土器で、山形押し型文を施文している。施文は口唇部の平坦面にも見られ口唇部では横位に、他の部位では縦位に施している。胴部下方の屈曲部以下の様相は今回の資料では明らかでないが、20～24は上底状の平底の特徴より、この手向山式土器に対応すると思われる。施文原体は、2.5～3.0cm程である。

また、竹管状施文による円形刺突文を2例に巡らした16•17の例は、村山A遺跡[3]（熊本県人吉市城本町村山）に見られる。

4・5の2点は、棒状施文具による刻み目突帯文を持つもので、横位の平行沈線の施文の後に、rの撚り糸を押捺している。現状では他に類例は見い出せないが、複合した文様構成等の特徴から手向山土器の範疇と理解したい。

D地点

浅鉢形土器を除く他の深鉢形土器は、口縁部を肥厚させ文様帯とするもので、文様は口縁部外面（9）や肩部の屈曲部等に、凹線文（38)、棒状施文具による凹線文（33.34）を施している。

E地点

D地点の出土遺物と対応するもので、61は肥厚した口縁部を文様帯とし、棒状施文具で凹線文を巡らしそれに直交する三日月状の短沈線を描きだしている。また、屈曲の凹線文(74.78.79等)、棒状施文具による凹線文（70.73.74）や、52•57等の凹線文間ないしは、その上方および

下方に押捺状の短沈線を施すものもみられる。

このような、D・E地点に類似した資料に中岳洞穴があり、中岳洞穴Ⅰ・Ⅱ[4]類と、さらに水の谷遺跡Ⅰb類土器[5]に対応すると言える。

底部の形状も、平底・上底・尖底があり、中岳洞穴とよく対応している。したがって、中岳洞穴や水の谷遺跡でも位置づけしているように、御領式土器の一器種をなすものと捉え、縄文時代後期後葉の時期と判断できる。

E－2区出土の土師器の内、内面に布目圧痕を持つ遺物は製塩との関係が指摘されており、特に尖底土器は、焼塩壺の可能性も考えられる[6]。(長野)

B地区

台地北側先端部に、遺物包含層が確認されさらに、弥生時代の住居跡2基と土坑1基も発見された。

1号住居跡は、床面積が約8㎡の方形プランで、主柱穴は確認されず、壁面に添って浅い小柱穴10個が巡らされ、中央部に堀込みを持つ炉が設けられていた。

2号住居跡は、床面積が約24㎡と大型で、対角線上に4本の主柱穴を持ち、中央には堀込みを持つ炉が確認しれた。平面形は多角形であり、西側の一辺には長方形の張り出し部が設けられている。この張り出し部と内部との間には若干高い壁があり、祭祀的空間として考えることができるかもしれない。また、内部の床面の高さは部分により異なり、内部空間の機能的な分割が想定される。この種の平面多角形の住所は、南九州弥生時代特有のプランであり、花弁状住居あるいは日向型間仕切り住居・間仕切り住居と呼ばれ、鹿屋市王子遺跡[7]のほか、宮崎県堂地東遺跡[8]・新田原遺跡[9]等で検出されている。

1号住居跡からは、「く」の字口縁で屈曲部内側がやや張り出し気味になり、明瞭な稜線をつくる松本薗O式類似[10]の甕形土器が出土した。松本薗O式は胴部に突帯が付かないが、本遺跡のものは胴部に突帯が巡り、松木薗遺跡のものとは若干の時期差あるいは地域差が存在する可能性も考えられる。また、王子遺跡の甕形土器や鉢形土器も出土している。

1号住居跡及び2号住居跡から出土した遺物は、量的に少なく明確な時期を設定することは困難であるが、弥生時代の中期から後期のものと思われる。(宮田)

A地区

1～3は角筒形土器で、地文の条痕を明瞭に残すことより前平土器で、前平遺跡[11]や永野遺跡[12]出土のものに近い。この前平式土器には円筒形・角筒形土器が存在することは既に指摘されているが、今回の資料には円筒形土器は明確ではないが、8がその可能性が高い。

4・7は条痕地に貝殻腹縁部を縦位に規則的に刺突したもので、加栗山遺跡[13]で大量に出土したものと同一であり、加栗山タイプ[14]と呼んだことがある。5は、全般に4に近いが、地文の条痕は残されていない。

他の土器は、底部も含め広義の石坂式土器と理解できるもので、本例と最も近いパターンを倉園B遺跡[15]に求められる。ちなみに、16は倉園Ⅱ類土器、17は倉園Ⅲ類土器と対応する。

調査中の観察では、1から8の土器が下位に、石坂式土器が上位に出土していた。そのことは、土器観察表の遺物出土のレベルからも傾向が伺える。

今回の調査では、5ヶ所で保存状況の良い遺物包含地が確認できた。それらの内、C地点は現地保存が困難であるとの判断で発掘調査を行い、記録保存とし、手向山式土器の新たな資料を追加することとなった。また、B地点では、2基の竪穴住居と1基の土坑の詳細な調査を行い、調査終了後は、遺構をそのまま現地保存することとなり、遺構全体が純白のシラスで埋め戻されている。残りの3地点は、遺物包含層から60～100cmの余裕を保ち現地保存が図られている。(長野)

＜註＞

1　鹿児島県教育委員会編　「埋蔵文化財の知識」　鹿児島県教育委員会　1986

2　新東晃一・立神次郎編　「下剝峯遺跡他」『西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書』
西之表市教育委員会　1978

3　片岡　肇　「手向山式土器の研究」平安博物館紀要　第1●　1970

4　河口貞徳編　「中岳洞穴」　末吉町教育委員会　1980

5　山口俊博編　「水の谷遺跡」『鹿屋市埋蔵文化財調査報告書5』鹿屋市教育委員会　1986

6　池畑耕一氏指導助言
池畑耕一　「西ノ平遺跡と薩摩郡衛（下）」隼人文化第18号　1986

7　立神次郎編　「王子遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書34』
鹿児島県教育委員会　1985

8　宮崎県教育委員会編　「宮崎学園年遺跡発掘調査報告書第2集」
宮崎県教育委員会　1985

9　石川悦雄　「新田原遺跡」『宮崎県児湯郡新富町文化財調査報告書第4集』
新富町教育委員会　1986

10　本田道輝　「松木薗1号住居址出土土器とその意義－松木薗式土器の系譜をめぐって」
『鹿大史学第32号』　鹿大史学会　1984

11　河口貞徳　「鹿児島県における貝殻条痕文土器について」
『鹿児島県考古学紀要第4号』　1955

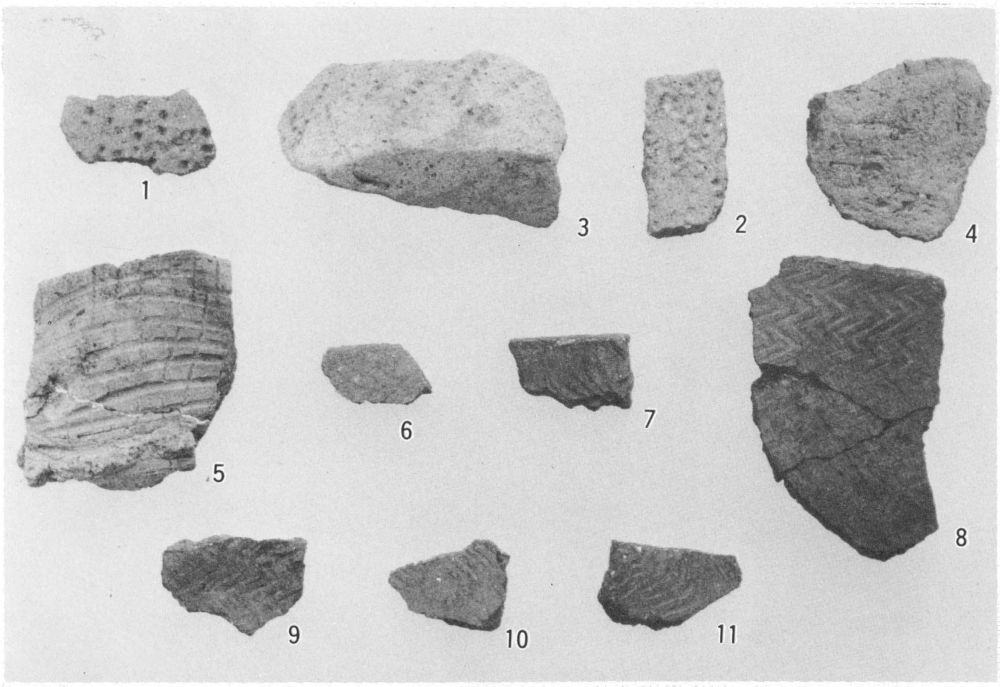
12　青崎和憲編　「永野遺跡」『知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書1』
鹿児島県知覧町教育委員会　1983

13　青崎和憲編　「加栗山遺跡」『鹿児島県埋蔵文化発掘調査報告書13』
鹿児島県知覧町教育委員会　1981

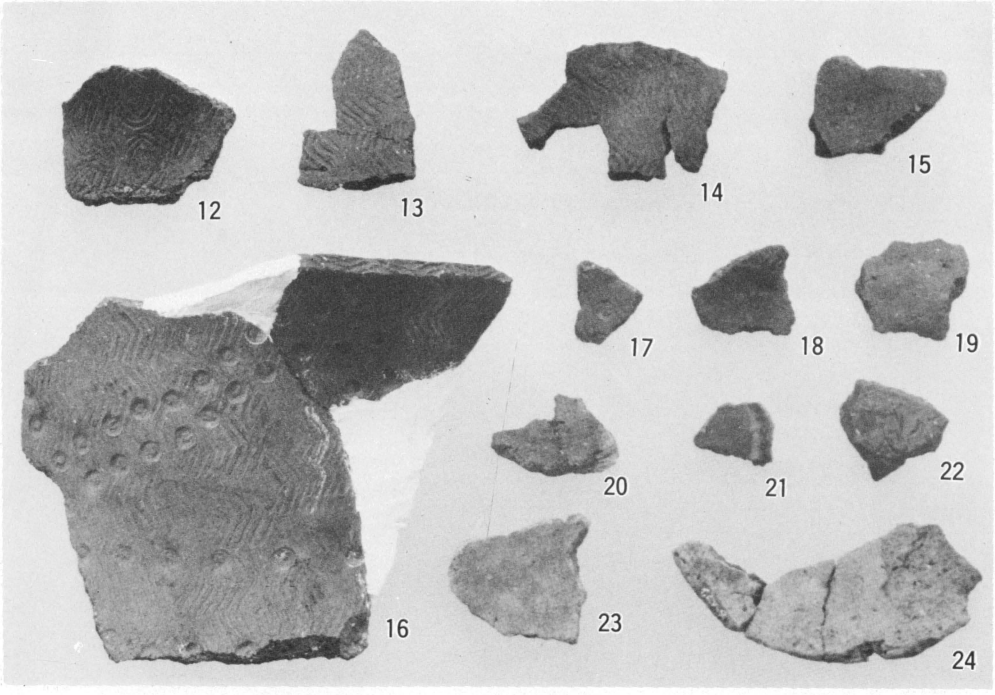
14　長野真一・峯崎幸晴編「上祓川遺跡群」『鹿屋市埋蔵文化財調査報告書1』
鹿屋市教育委員会　1984

15　瀬戸口望・前迫亮一編　「食園B遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書7』
鹿児島県曽於郡志布志町教育委員会　1984

図　　版

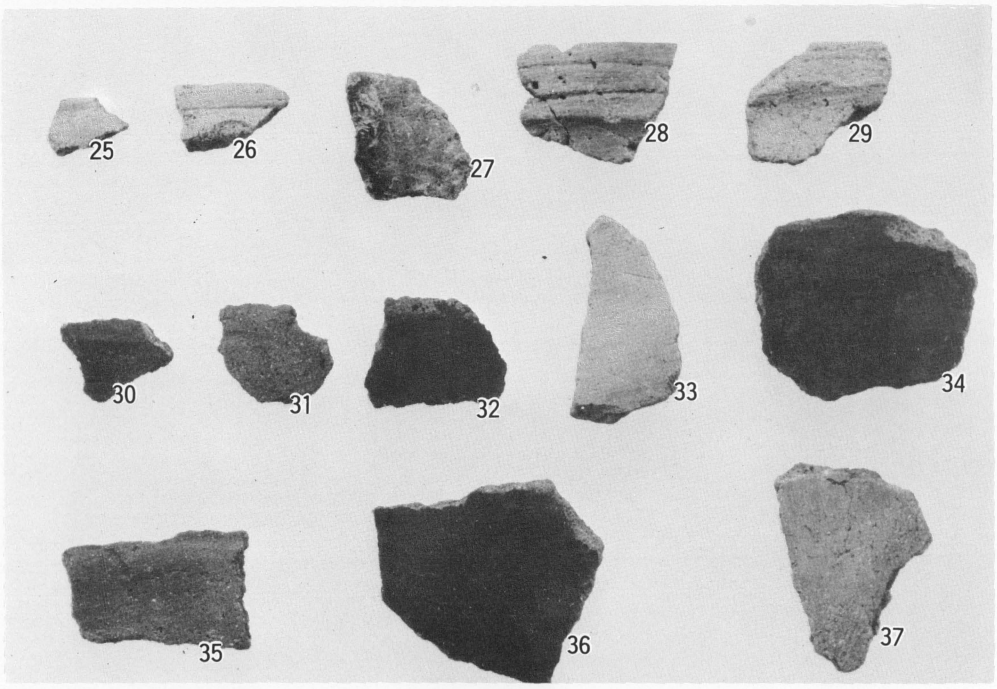


C地点出土品

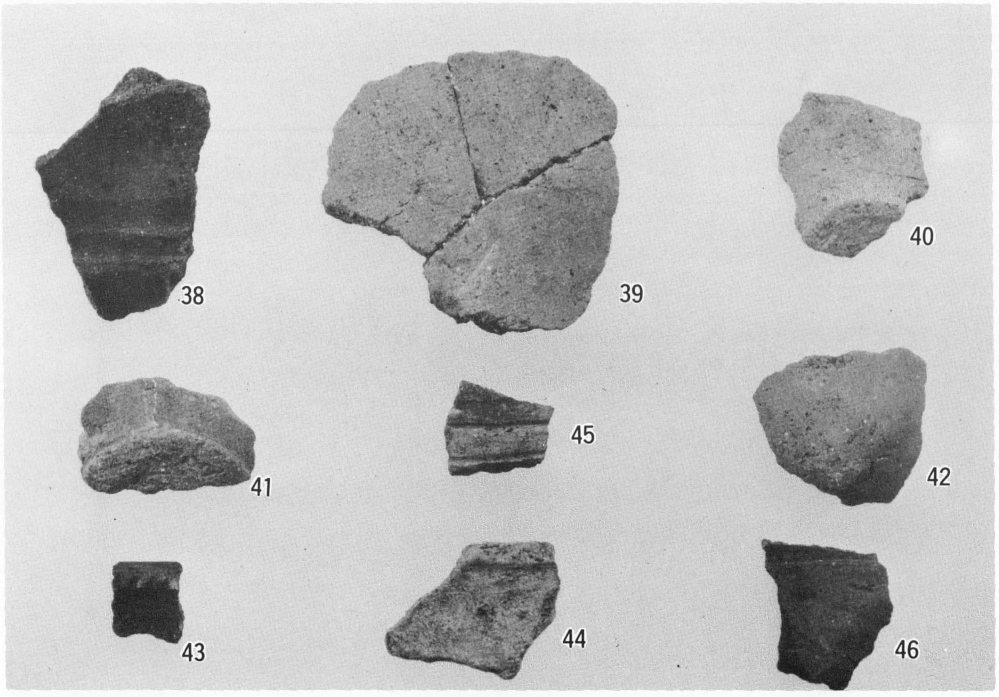


C地点出土品

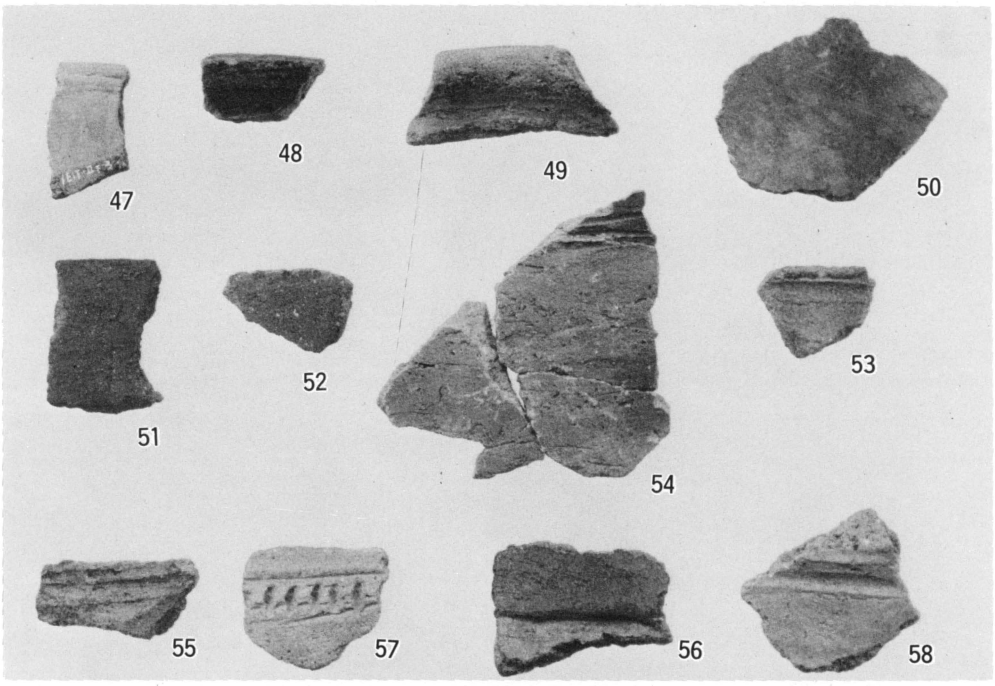
図版2



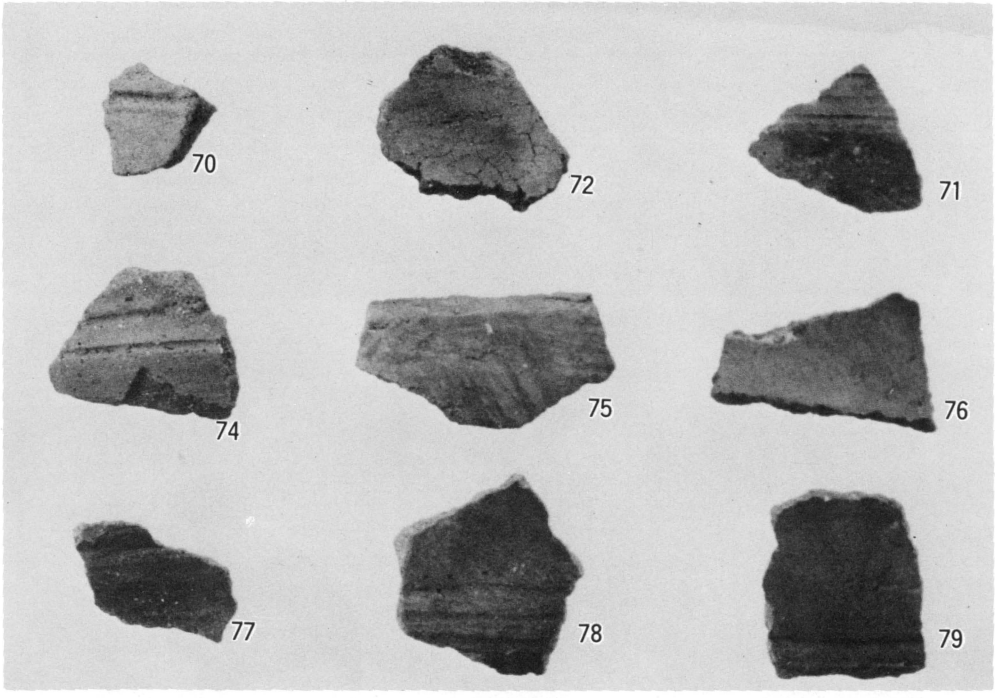
D地点出土品



D地点出土品

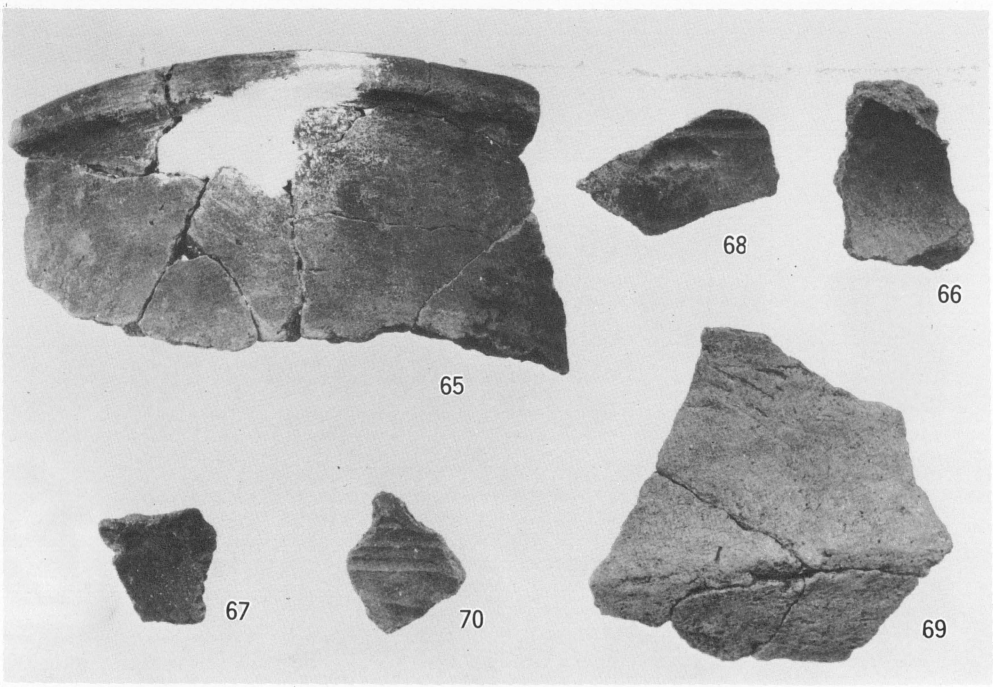


E地点出土品

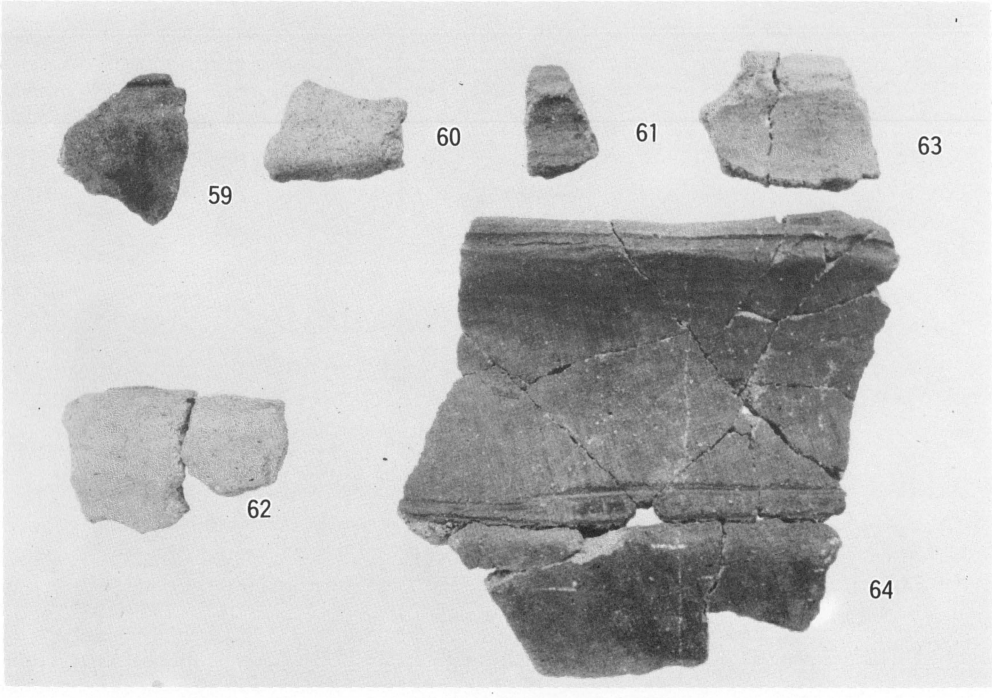


E地点出土品

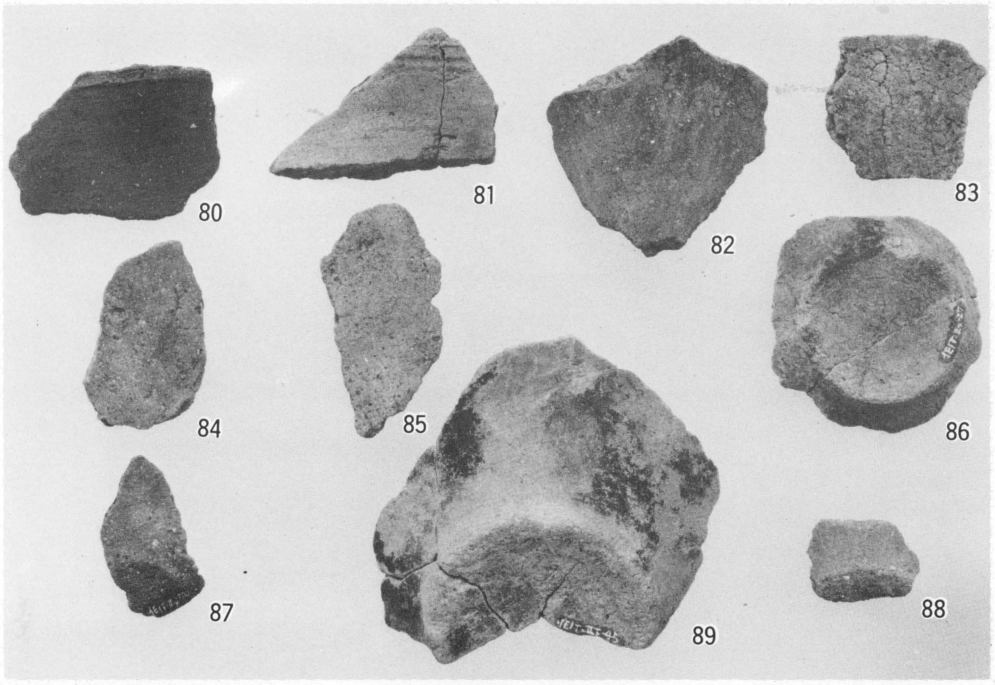
図版4



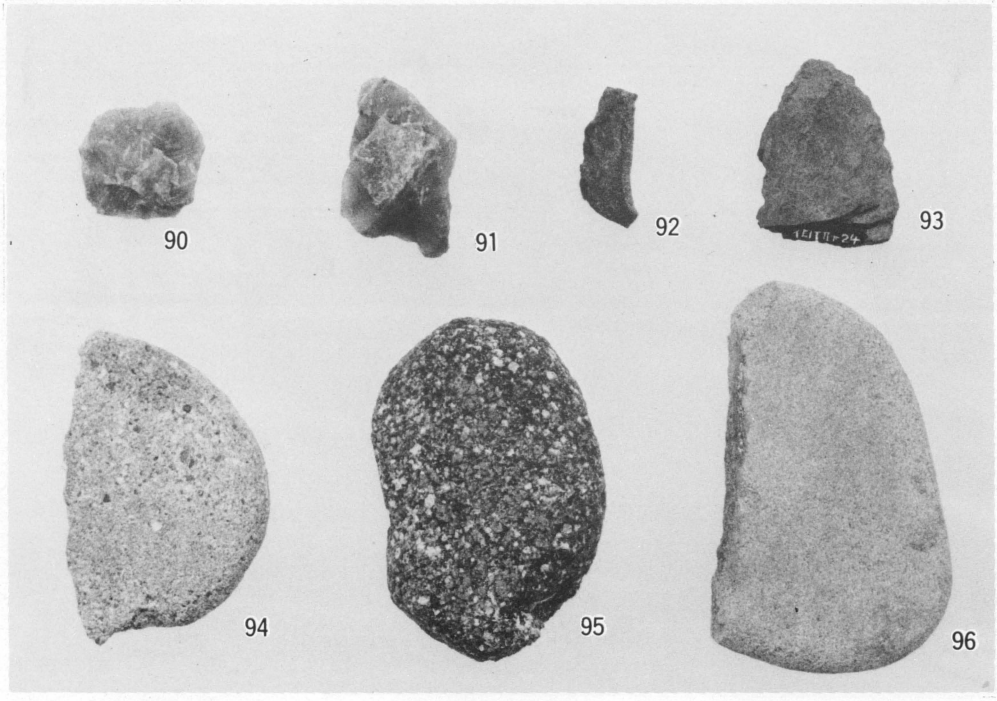
E地点出土品



E地点出土品

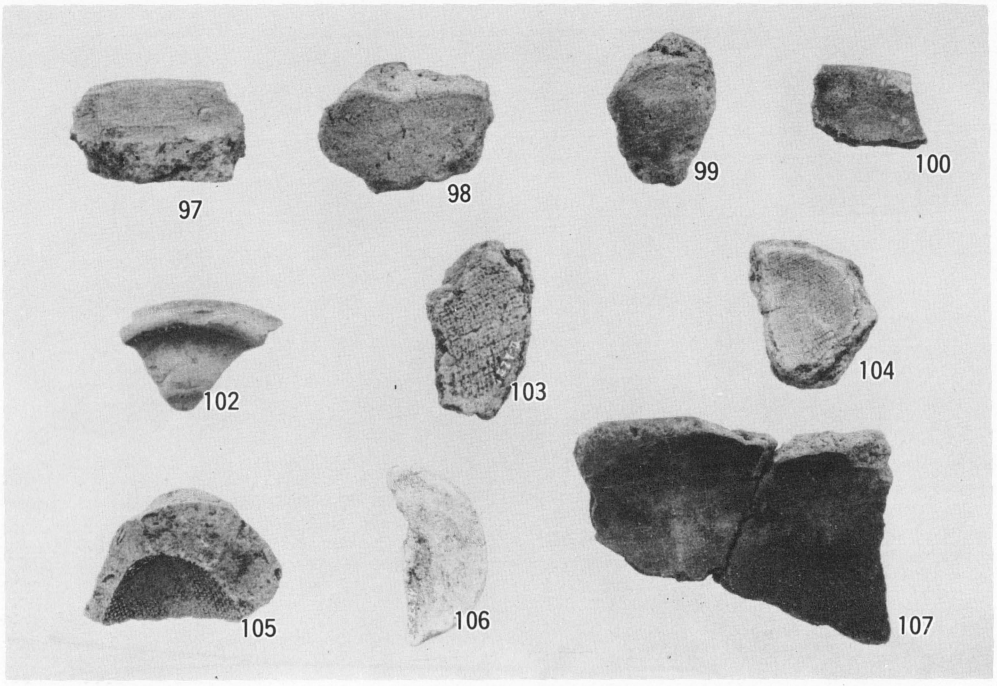


E地点出土品

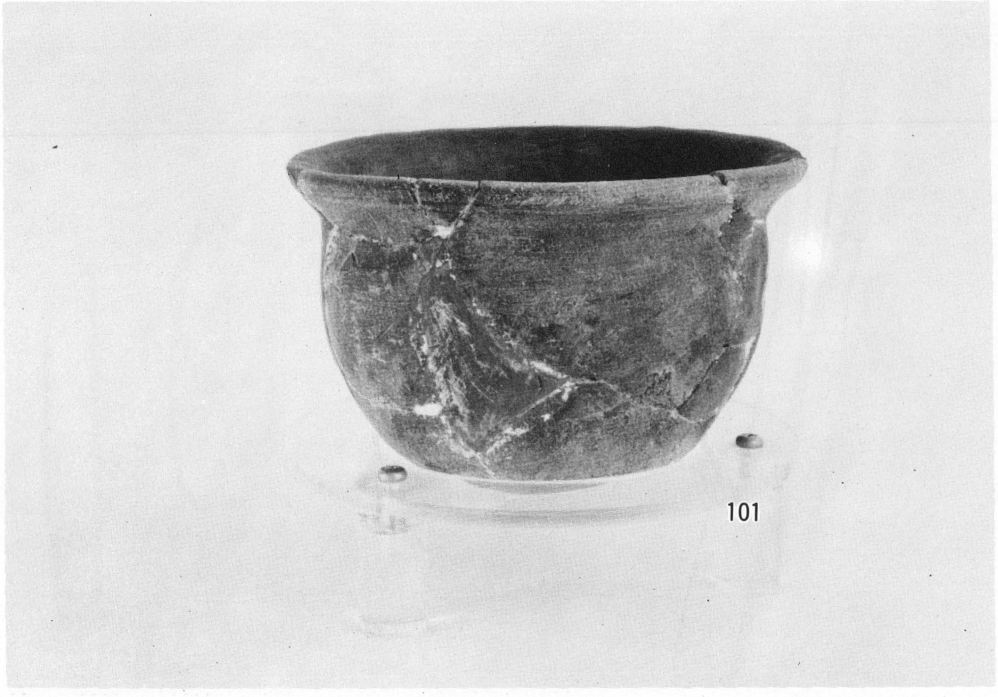


E地点出土品

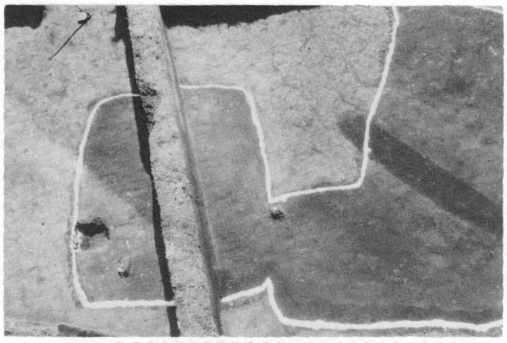
図版6



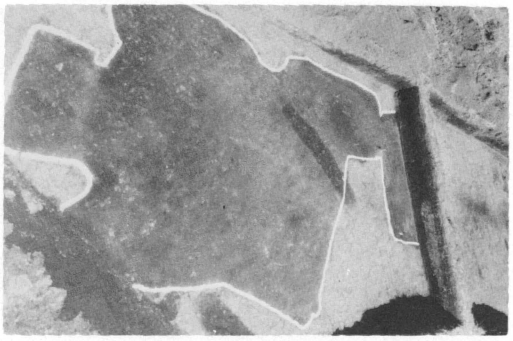
E地点出土品



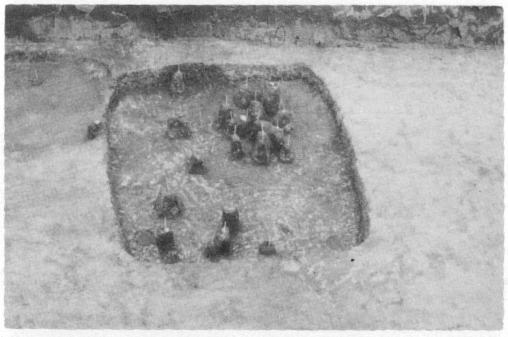
E地点出土品



1号住居跡検出状況

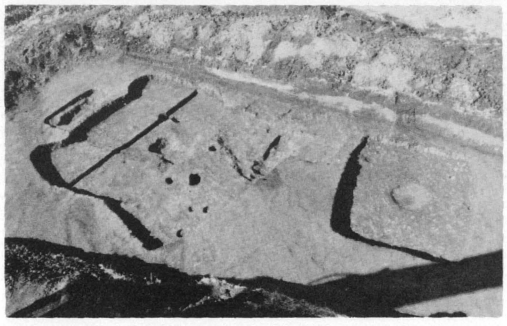


2号住居跡検出状況

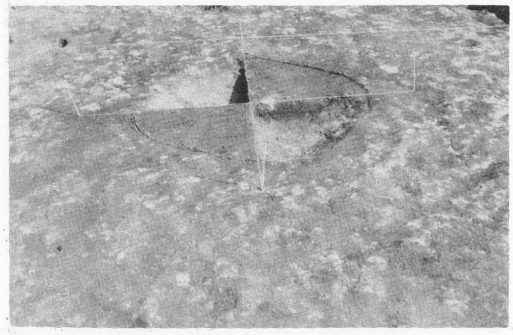


遺物出土状況

実掘状態

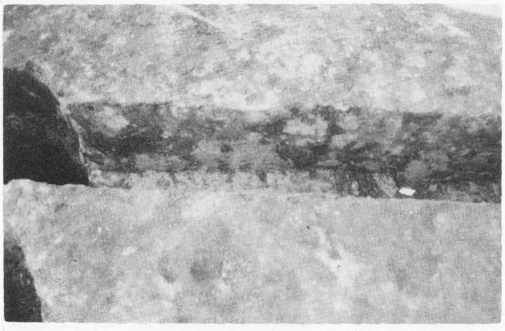


図版8

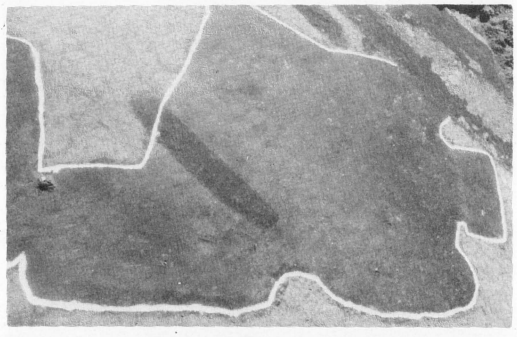


1号住居跡炉跡

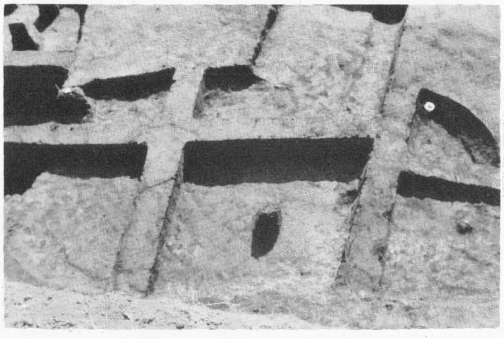
2号住居跡炉跡



2号住居跡床面断ち切り

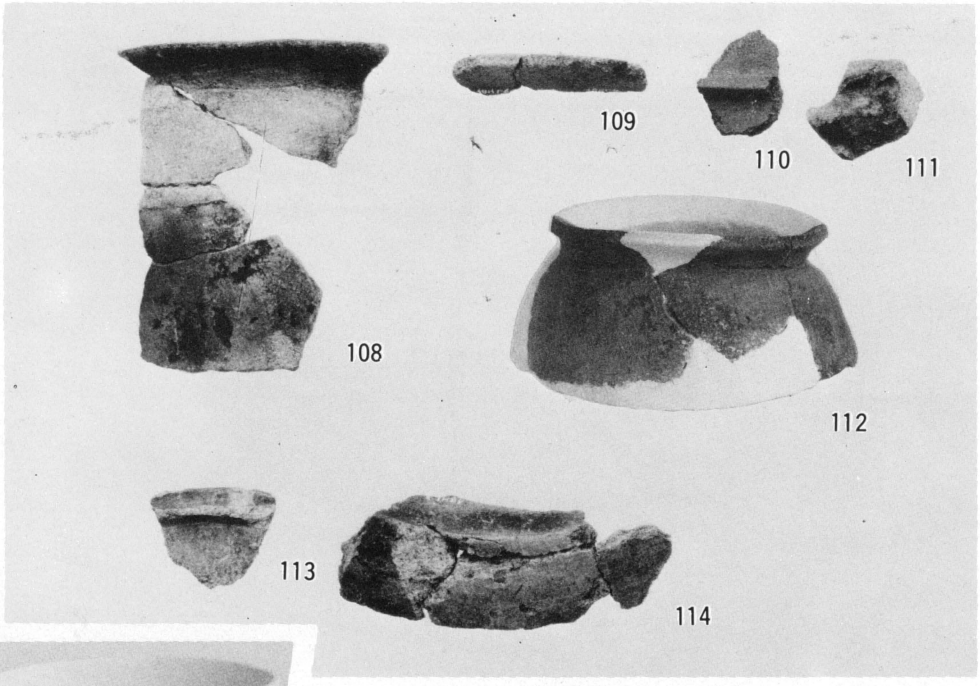


土坑状遺構検出状況

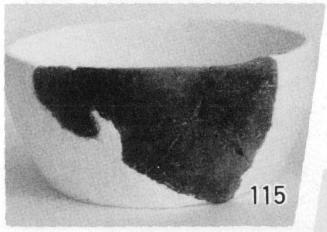


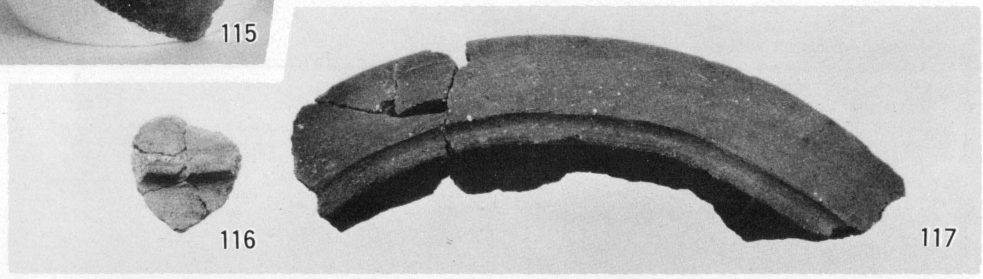
土坑状遺構掘り下げ

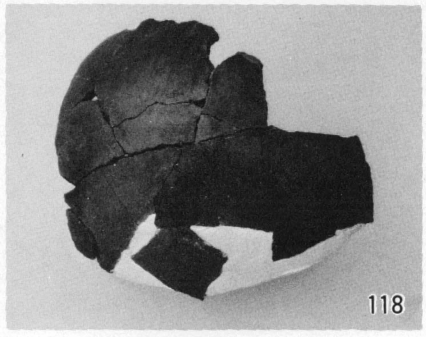
第2トレンチ遺物出土状態

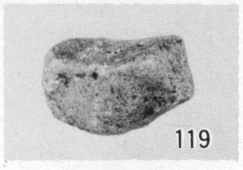


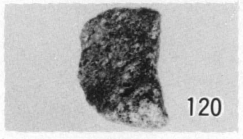
1号住居跡出土遺物

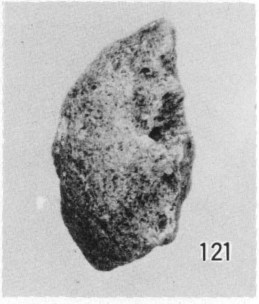






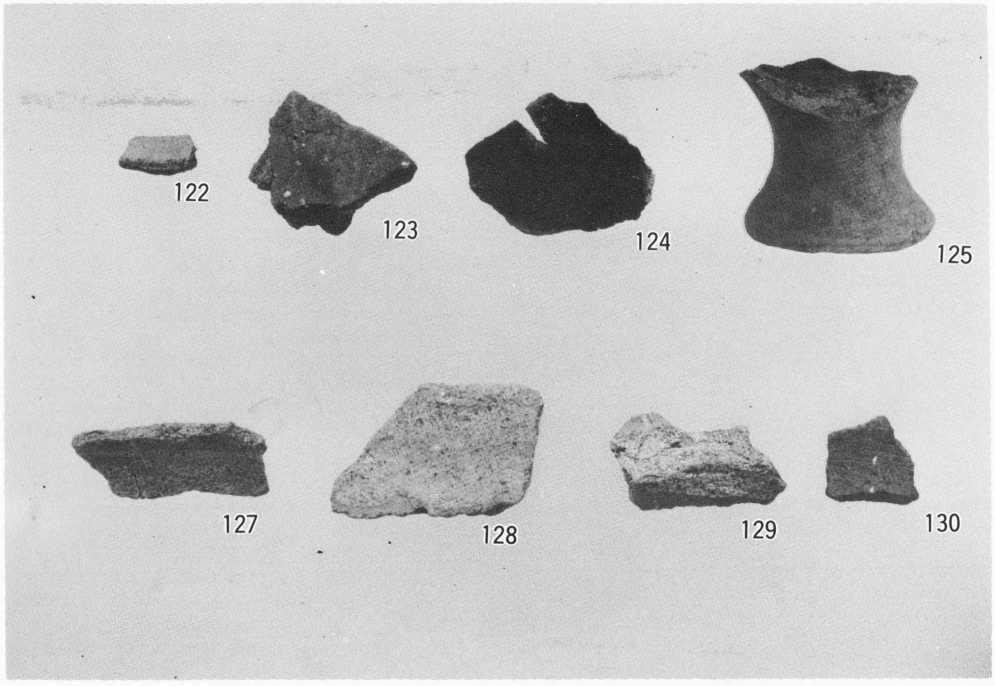




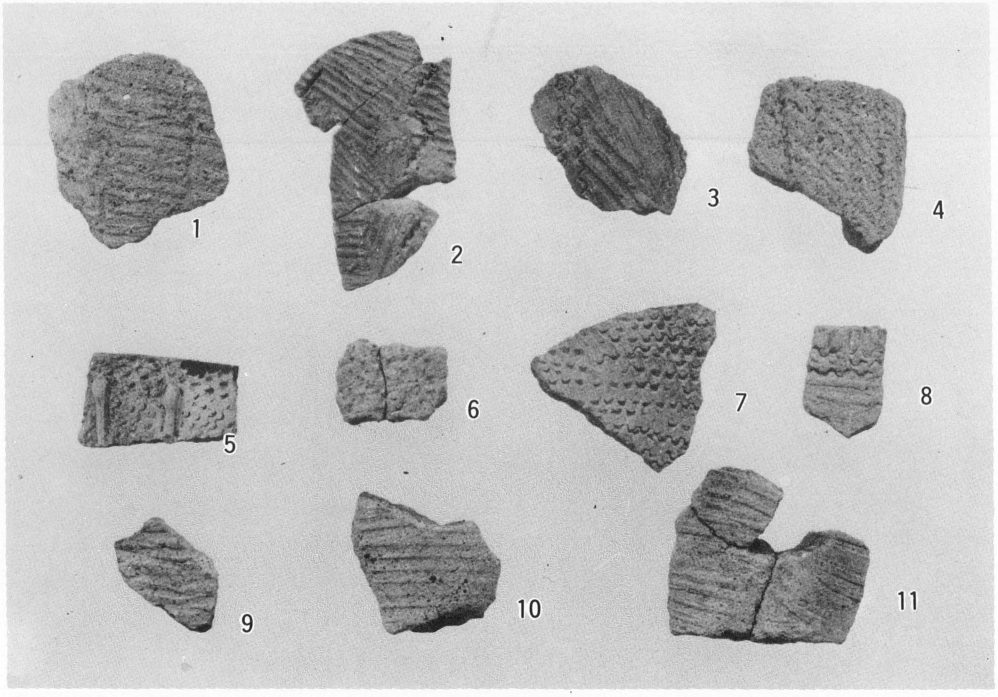


2号住居跡出土遺物

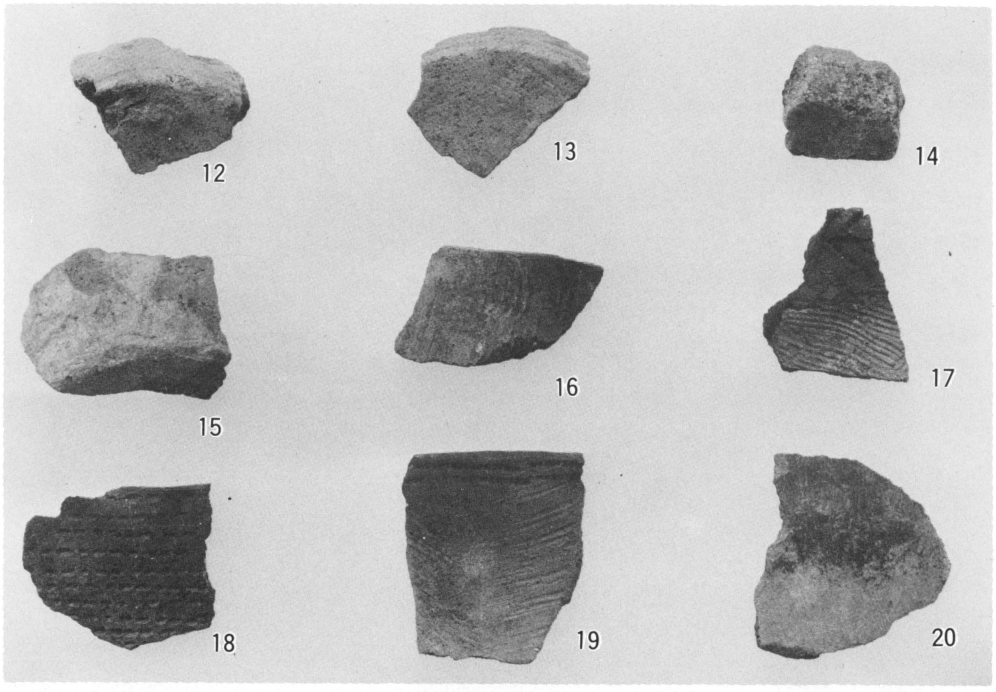
図版10



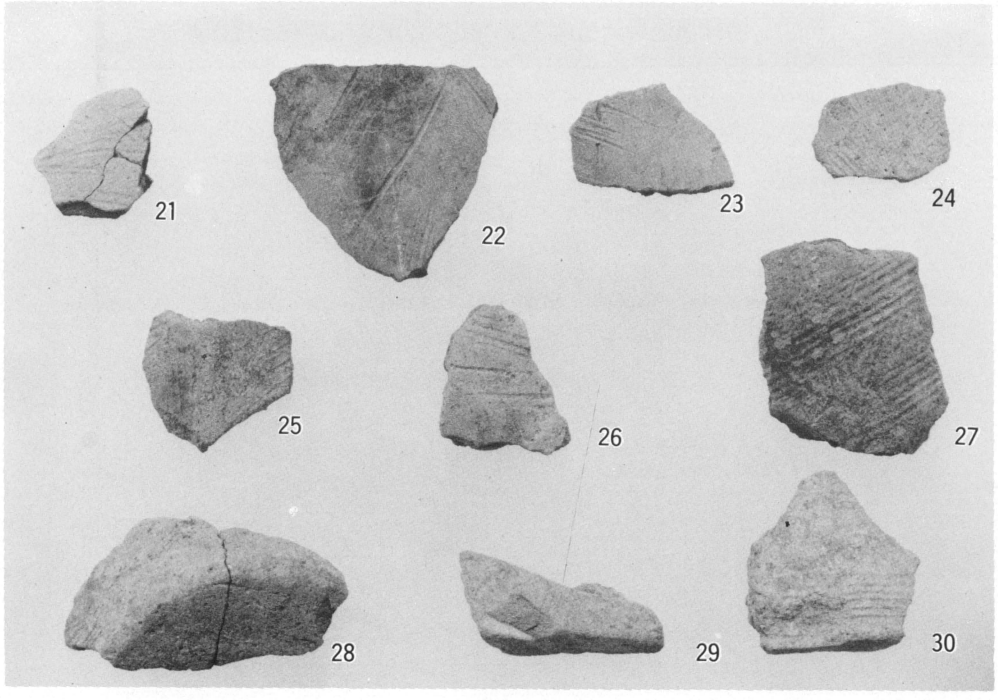
B地点出土品



A地点出土品



A 地点出土品



A 地点出土品

発掘作業員

新穂　光治　　井出　武文　　徳永　光夫

徳増　ツル　　富吉カオル　　加世田エイ子　　安楽百合子　　安楽　ナミ　　中山イチ子

池ノ原ノリ子　　吉元より子　　阿多　久子　　西留　節子　　脇田真砂子　　永田　和子

紙屋きみ子　　西田　ノブ　　楠元ヨシ子　　上岡　明子　　西別当辰子

整理作業員

川畑　恵子　　高倉晴美

松山町埋蔵文化財調査報告書（3）

特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

井手間遺跡
山ノ田遺跡

発行日　平成元年3月
発　行　松山町教育委員会
　　鹿児島県曾於郡松山町新橋268
印　刷　平　成　印　刷
　　宮崎県都城市神之山町2035番地